

宿泊施設における環境配慮に関する研究

- 京都市内の宿泊施設を対象として -

仁賀 崇之

環境計画学科環境社会計画専攻において学士(環境科学)の学位授与の資格の
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した研究報告書

2001年度

目 次

第1章 序論	1
1-1 本研究の背景	1
1-2 既存の調査・研究	1
1-3 本研究の目的と意義	1
1-4 本研究の構成	2
<注及び参考文献>	2
第2章 京都市内の宿泊施設における環境配慮への取り組み調査	3
2-1 調査の概要	3
2-1-1 評価シートの概要	3
2-2 対象宿泊施設について	3
2-3 調査方法について	4
2-3-1 評価シートによる調査の結果	4
第3章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の把握	5
3-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状について	5
3-1-1 宿泊施設全体からみた【全面的に取り組んでいる】取り組み	5
3-1-2 ホテル・旅館別にみた【全面的に取り組んでいる】取り組み	12
3-1-3 中小規模・大規模別からみた【全面的に取り組んでいる】取り組み	21
3-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ	29
3-2-1 宿泊施設全体からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ	29
3-2-2 ホテル・旅館別からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ	31
3-2-3 中小規模・大規模別からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ	33
第4章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質の明確化	37
4-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状から見た宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質	37
4-1-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質(宿泊施設全体)	37
4-1-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質(ホテル・旅館の違い)	38
4-1-3 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質(規模による違い)	40
4-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状から見た宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質のまとめ	43

第5章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの評価システムの提案	45
5-1 評価システムの概要	45
5-2 評価システムの仕組み	45
5-2-1 取り組み項目の点数付け	46
5-2-2 取り組みレベルの設定	52
5-3 評価システムによる調査結果	54
5-3-1 宿泊施設における取り組みレベルの結果(部門別)	54
5-3-2 宿泊施設における総合評価結果	57
5-4 最も取り組みを行っている宿泊施設について	58
5-4-1 最も取り組みを行っている宿泊施設の実際の得点	58
5-4-2 最も取り組みを行っている宿泊施設が【取り組んでいない項目】について	58
5-4-3 最も取り組みを行っている宿泊施設が【取り組んでいない項目】のまとめ	60
5-5 創立年度からの考察	62
5-5-1 ホテル・旅館別から見た創立年度からの考察	62
5-5-2 中小規模・大規模宿泊施設別からみた創立年度からの考察	63
5-5-3 創立年度からの考察のまとめ	64
第6章 結論	65
6-1 本研究の結論	65
6-2 京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の結論	65
6-3 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質の結論	66
6-4 評価システムの提案の結論	66
6-4-1 評価システムの提案のまとめ	66
6-4-2 評価システムでの評価の仕方	67
6-4-3 評価システムによる調査結果のまとめ	67
6-4-4 最も取り組みを行っている宿泊施設のまとめ	67
6-4-5 これから環境配慮に対する取り組みを始める宿泊施設に対する提案	68
6-5 今後の課題	68
謝辞	70

図 表 目 次

表 2-3	ホテル、旅館、大規模宿泊施設、中小規模宿泊施設の定義	4
表 2-3-1	宿泊施設別の返却結果	4
表 3-1-1	エネルギー消費における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	5
表 3-1-2	水の使用における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	6
表 3-1-3	紙の使用における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	6
表 3-1-4	一般廃棄物における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	7
表 3-1-5	悪臭・騒音・振動における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	7
表 3-1-6	グリーン購入における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	8
表 3-1-7	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	8
表 3-1-8	環境保全のための仕組み体制における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	9
表 3-1-9	客室における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	10
表 3-1-10	レストラン・厨房における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	11
表 3-2-1	エネルギー消費(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	12
表 3-2-2	水の使用(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	13
表 3-2-3	紙の使用(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	14
表 3-2-4	一般廃棄物(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	15
表 3-2-5	悪臭・騒音・振動(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	15
表 3-2-6	グリーン購入(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	16
表 3-2-7	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	17
表 3-2-8	環境保全のための仕組み・体制(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	18
表 3-2-9	客室(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	19
表 3-2-10	レストラン・厨房(ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	20
表 3-3-1	エネルギー消費(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	21
表 3-3-2	水の使用(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	22
表 3-3-3	紙の使用(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	23
表 3-3-4	一般廃棄物(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	23
表 3-3-5	悪臭・騒音・振動(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	24
表 3-3-6	グリーン購入(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	24
表 3-3-7	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	25
表 3-3-8	環境保全のための仕組み・体制(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	25

割合(%)	26
表 3-3-9 客室(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)	27
表 3-3-10 レストラン・厨房(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】 割合(%)	28
表 4-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組み性質のタイプの説明	44
表 5-2-1【難易度】の分類	46
表 5-2-2【得点表】	47
表 5-2-3 取り組み項目別【難易度】分類表	48
表 5-2-4 一般廃棄物の得点表	51
表 5-2-2(1) 部門別のレベル設定表	52
表 5-2-2(2) 総合評価のレベル設定表	53
表 5-3-1 の宿泊施設(9件)における部門別の取り組みレベル(件)	54
表 5-3-2 の宿泊施設(26件)における部門別の取り組みレベル(件)	54
表 5-3-3 の宿泊施設(22件)における部門別の取り組みレベル(件)	54
表 5-3-4 の宿泊施設(5件)における部門別の取り組みレベル(件)	54
表 5-3-5 の宿泊施設(4件)における部門別の取り組みレベル(件)	55
表 5-3-6 宿泊施設全体(66件)における部門別の取り組みレベル(件)	55
表 5-3-7 取り組みやすい性質の取り組み(一部)の宿泊施設の取り組み状況	56
表 5-3-8 宿泊施設のタイプ別における総合評価結果表(件)	57
表 5-4-1 最も取り組みを行なっている宿泊施設の実際の得点	58
表 5-4-2 取り組んでいない項目とその理由と項目のタイプ	61
図 5-5-1 創立年度&総合評価のレベル【ホテル】	62
図 5-5-2 創立年度&総合評価のレベル【旅館】	63
図 5-5-3 創立年度&総合評価のレベル【中小規模宿泊施設】	63
図 5-5-4 創立年度&総合評価のレベル【大規模宿泊施設】	64

第1章 序論

1-1 本研究の背景

1997年、京都で国連気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）が開催された。そしてこれに伴い京都府、滋賀県における宿泊施設では環境配慮に対する取り組みをおこないい、環境保全活動を盛り上げていこうというキャンペーンが行なわれた¹⁾。しかし、一旦このような取り組みが行われたにもかかわらず、さらなる継続的な取り組みはあまりなされていない。また、京都には KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）²⁾ という認証がスタートし、宿泊施設が気軽に環境配慮に対する取り組みに参加出来る仕組みが整っている。しかし、宿泊施設の環境対策は他業種に比べ、まだまだ遅れているのが現状である。

1-2 既存の調査・研究

宿泊施設の環境配慮に関する研究としては、立命館大学産業社会部 深井研究室による「京の岐路～環境にやさしい宿泊施設をめざして～」³⁾が発表されている。この研究は京都市内の宿泊施設の廃棄物問題に関する調査であり、京都市内の宿泊施設に対して、廃棄物に関するアンケート・ヒアリング調査を行い現状を把握する。そして廃棄物の削減や適正処理を促すというものである。また京都大学大学院エネルギー研究科による「ホテルにおけるエネルギー消費・環境対策に関する研究」⁴⁾がある。

しかしながら、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みについての研究は今までなされていない。

1-3 本研究の目的と意義

現在「グリーン購入ネットワーク（GPN）⁵⁾において、『宿泊施設の環境ガイドライン』の策定が進められている。このガイドラインは、一定の環境対策を行っている宿泊施設を、自主申請により認定し、企業、官庁、個人等に、そうした「環境にやさしい宿泊施設」の優先的な利用を促す仕組みであり、2002年4月の導入を目標に策定が進められている。このように、宿泊施設における環境配慮ということが重要視され、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを促進させることが必要とされている。

そこで、本研究として以下の3つを目的とする。

京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを調査する事により現状を把握する。

宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（取り組みやすい取り組み・取り組みにくい取り組み）を明確化する。

この結果を受けて、今後宿泊施設での環境配慮に対する取り組みの裾のを広げることが目的とし、環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案する。

1 - 4 本研究の構成

そこで、まず、第1章で本研究の背景と目的を、第2章で評価シートを用いたアンケート調査の方法について述べる。第3章では京都市内の宿泊施設の環境配慮に対する取り組みの現状を把握し、第4章で京都市内の宿泊施設における環境配慮の性質を明確化する。第5章では3章、4章の結果をもとに宿泊施設の環境配慮に対する取り組みに対する評価システムを提案する。第6章では、結論と今後の課題について述べる。

注及び参考文献

- 1) 朝日新聞(朝刊): p.27(1997.9.2)
- 2) 京のアジェンダ21ホームページ <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>
- 3) 深井純一:京都市内の宿泊施設の廃棄物問題に関する調査報告(2000)
- 4) 溝口和宏:ホテルにおけるエネルギー消費・環境対策に関する研究(1999)
- 5) グリーン購入ネットワークホームページ <http://eco.goo.ne.jp/gpn/index.html>

第2章 京都市内の宿泊施設における環境配慮への取り組み調査

2-1 調査の概要

本研究における調査は、京都市内の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状を把握することが目的である。そのために宿泊施設の環境配慮に対する取り組みを評価するための評価シートを作成して調査を行なった。

2-1-1 評価シートの概要

評価シートとは、宿泊施設の環境配慮に対する取り組みを評価するためのシートであり、京のアジェンダ21のKES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の宿泊施設版のチェックリストを基本とし、取り組み項目を再検討、削減して作成した。

具体的に、取り組み項目を作成するのに以下のようなことに留意した。

費用効果の高くなる項目を作成する

あいまいな質問項目は極力無くす

客室、レストラン、全体など部門ごとに評価できるよう項目を設定する

(1) 部門の設定

この評価シートは、宿泊施設側が答えやすくするためにいくつかの部門に分けて作成した。その部門とは【エネルギー消費】、【水の使用】、【紙の使用】、【一般廃棄物】、【騒音・振動】、【グリーン購入】、【化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出】、【環境保全のための仕組み】、【客室】、【レストラン・厨房】の10部門である。項目数は全部門合計で93項目ある。

(2) 選択肢の設定

答える選択肢は【全面的に取り組んでいる】、【一部取り組んでいる】、【さらに取り組む】、【取り組んでいない】、【今後取り組む予定】とした。

【取り組んでいない理由】の選択肢としては 社会的制度・法律規制、 情報不足、

トップの方針、 人材不足、 時間的問題、 資金不足、 環境対策のメリットの不確実性、 顧客の支持が得られない、 取り組むのが面倒である、 その他という選択肢を設けた。

2-2 対象宿泊施設について

本研究の対象としている宿泊施設は京都市内にある宿泊施設のことである。対象とした宿泊施設は、京都のアジェンダ21から提供していただいた宿泊施設リスト（京都市の観光案内所で紹介している宿泊施設＋京都公共宿泊施設連絡協議会に加盟している宿泊施設＋電話帳に載っている宿泊施設で構成されている）に記載されている250件である。

2 - 3 調査方法について

(1) 調査方法

事前に調査対象宿泊施設に対して電話で調査を依頼し、調査の内諾を得た宿泊施設のみに調査票（付録参照）の郵送配布・郵送回収をおこなった。

(2) 調査期間

2001年10月23日～11月25日

2 - 3 - 1 評価シートによる調査の結果

250件に電話で調査を依頼し、内諾した宿泊施設は180件、返却された宿泊施設は66件であった。66件のうちホテルが22件、旅館が42件、その他（不明が1件、コースホテルが1件である）が2件であった。

また、返却のあった宿泊施設のうち大規模宿泊施設は8件（12%）、中小規模宿泊施設は58件（88%）であった（表2 - 3 - 1）。

ホテル、旅館、大規模宿泊施設、中小規模宿泊施設の定義は以下の通りである。

表2 - 3 ホテル、旅館、大規模宿泊施設、中小規模宿泊施設の定義

ホテル	洋式の構造及び設備を主とする施設を設けている宿泊施設
旅館	和式の施設及び設備を主とする施設を設けている宿泊施設
大規模宿泊施設	客室数が300室以上の宿泊施設
中小規模宿泊施設	客室数が300室未満の宿泊施設

表2 - 3 - 1 宿泊施設別の返却結果

ホテル	大規模	8件
	中小規模	14件
旅館	大規模	0件
	中小規模	42件
その他	大規模	0件
	中小規模	2件

第3章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の把握

3-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状について

3-1-1 宿泊施設全体からみた【全面的に取り組んでいる】取り組み

本章では宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の把握を行なう。現状の把握は、本研究の調査によって得られた結果の中で【全面的に取り組んでいる】という回答に注目して見ていく。以下の表の中での(%)というのは宿泊施設全体の中での【全面的に取り組んでいる】割合を表したものである。

(1) エネルギー消費

表3-1-1から最も取り組んでいる割合が高いのは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】の79%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】の3%であることがわかる。

表3-1-1 エネルギー消費における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	エネルギー消費	全体(%)
1	コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。	3
3	二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。	10
5	カード・キーの導入により節電を実施している。	10
2	自然エネルギー(太陽光の室内導入、通風の活用等)を積極的に活用している。	14
10	屋内で効率的な照明管理を行っている。	17
8	施設内の電球を電球型蛍光灯に変更している。	18
4	空調の適温化(室内温度の設定を夏は28以上に、冬は20以下)を実施している。	21
9	屋外で効率的な照明管理を行っている。	24
11	使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。	25
7	建物周辺、屋上等の緑化を実施している。	27
12	パソコン、コピー機等のOA機器は、使用しない時は電源を切っている。	47
6	空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。	79

(2) 水の使用 (表3-1-2)

表3-1-2から最も取り組んでいる割合が高いのは【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】の55%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【1、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の3%であることがわかる。

表3-1-2 水の使用における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	水の使用	全体(%)
21	女性用トイレに自動流水音装置を設置している。	3
19	その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。	14
17	ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。	17
14	蛇口(客室内も含めて)に節水こま(適量の水を流すこま)を設置している。	18
18	トイレに節水こま(タンク内に容器を沈める方法も可)を設置している。	21
15	一度の操作で一定水量流れる蛇口の流量の適正な調節を行なっている。	22
16	手でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している	22
13	各工程(調理、食器洗浄、洗濯、客室・パブリックスペース等の清掃、など)で工夫し、水の使用量の削減を実施している。	36
20	水道配管からの漏洩を定期的に点検している。	55

(3) 紙の使用 (表3-1-3)

表3-1-3から最も取り組んでいる割合が高いのは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】の63%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】の15%であることがわかる。

表3-1-3 紙の使用における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	紙の使用	全体(%)
25	電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。	14
27	トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。	15
28	トイレトーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。	22
22	会議用資料や事務書類の簡素化、減少を実施している。	34
26	使用済み封筒の再利用を実施している。	41
24	両面印刷・コピーを実施している(無駄な印刷を削減している)	44
23	使用済用紙の裏面を使用している。	63

(4) 一般廃棄物 (表3-1-4)

表3-1-4から最も取り組んでいる割合が高いのは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】の59%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の10%であることがわかる。

表3-1-4 一般廃棄物における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	一般廃棄物	全体(%)
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。	10
29	使用する容器(飲料・洗剤等)の3割以上でリターナブル容器を使用している。	24
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	25
30	分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	30
35	OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	47
34	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	52
31	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	59

(5) 悪臭・騒音・振動 (表3-1-5)

表3-1-5から最も取り組んでいる割合が高いのは【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】の77%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】の19%であることがわかる。

表3-1-5 悪臭・騒音・振動における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	悪臭・騒音・振動	全体(%)
38	低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。	19
39	夜間照明による光害を防止するための措置を講じている。	31
36	悪臭防止のため排出口(換気口)の位置等の配慮を行なっている。	51
37	ゴミの保管、管理を適切に行っている。	77

(6) グリーン購入 (表3 - 1 - 6)

表3 - 1 - 6 から最も取り組んでいる割合が高いのは【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】の77%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】の19%であることがわかる。

表3 - 1 - 6 グリーン購入における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	グリーン購入	全体(%)
42	資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。	13
41	環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。	15
40	環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。	18
43	資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)	26

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出 (表3 - 1 - 7)

表3 - 1 - 7 から最も取り組んでいる割合が高いのは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】の51%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【46、PRTR 法に従い MSDS (化学物質安全性データシート) を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)】の13%であることがわかる。

表3 - 1 - 7 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	全体(%)
46	PRTR 法に従い MSDS (化学物質安全性データシート) を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)	13
47	使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。	17
48	害虫駆除剤、芳香剤、防湿剤、消臭剤は自然素材のもの、使用の削減に努めている。	22
44	有害性の恐れのある化学物質は、種類・使用量・保管量・使用方法・保管場所等を記録している。	24
51	日常の管理における水質汚濁防止への配慮(水質処理装置の設置等)を行なっている。	27
50	水質汚濁の少ない工程・機器(食器洗浄、調理、洗濯、清掃など)を工夫し、採用している。	28
49	ポリ塩化ビフェニール(PCB)が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。	40
45	フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。	51

(8) 環境保全のための仕組み・体制 (表 3 - 1 - 8)

表 3 - 1 - 8 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 5 9、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】の 3 2 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 5 6、従業員の環境教育プログラムがある。 5 8、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している】の 6 % であることがわかる。

表 3 - 1 - 8 環境保全のための仕組み・体制における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	環境保全のための仕組み・体制	全体 (%)
56	従業員の環境教育プログラムがある。	6
58	環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している	6
54	協力会社・関連会社・発注者等に環境保全の面から評価するとともに、その改善支援を行なっている。	8
53	環境活動上必要な作業手順や運用基準が明確に定められている。	10
52	環境対応のための組織 (役割分担や責任、権限など) が明確に定められている。	12
57	顧客・取引先・地域住民に自社の環境活動の取り組みについて広報し、理解と協力を得ている。	13
55	委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている。	15
60	顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。	23
59	周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。	32

(9) 客室 (表 3 - 1 - 9)

表 3 - 1 - 9 から、最も取り組んでいる割合が高いのは【 7 0、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】の 8 4 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 6 7、歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。 7 2、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関しての意見、要望を問う項目を設けている。】の 1 3 % であることがわかる。

表 3 - 1 - 9 客室における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	客室	全体 (%)
67	歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。	13
72	顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関しての意見、要望を問う項目を設けている。	13
64	アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。	18
69	分別回収ボックスを設置し、リサイクルを実施している。	22
62	客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。	27
71	連泊客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。	27
65	アメニティグッズの包装を簡易化している。	43
63	アメニティグッズの数を必要最低限にしている。	45
66	提供したアメニティグッズの内、使用されなかったグッズを再度提供している。	52
68	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	62
61	客室ごとに空調管理ができる。	65
70	使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。	84

(1 0) レストラン・厨房 (表 3 - 1 - 1 0)

表3 - 1 - 10 から最も取り組んでいる割合が高いのは【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】の70%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）、乾燥減量化している。】の3%であることがわかる。

表3 - 1 - 10 レストラン・厨房における【全面的に取り組んでいる】割合（%）

No.	レストラン・厨房	全体(%)
87	厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）、乾燥減量化している。	3
76	ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。	5
83	割り箸、使い捨て型食器類（皿、コップ、スプーン等）を廃止している。	8
84	割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。	9
85	お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものにしている。	15
91	天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。	17
92	輸送エネルギーを削減するため、近郊（地場）で採れた食材を使用している。	17
79	ミルク、バター、砂糖、ジャム等の容器の個包装を廃止している。	18
81	牛乳パック、食品トレーのリサイクルを実施している。	20
75	キッチンペーパーの使用量を削減している。	23
78	通い箱（繰り返し使用する梱包材）を利用している。	25
82	使い捨てのコースター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。	25
89	廃食油の劣化を防ぐ工夫をしている。	25
77	どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニルの食品ラップの代替を実施している。	29
74	お食事メニュー、メモ、伝達事項は、黒板、ホワイトボード、回覧版の使用を実施している。	32
86	食材の廃棄が少なくなるよう、残部の活用、調理・購入計画を見直している。	33
73	お食事時、追加のお茶、水の提供は顧客に尋ねてから注いでいる。	35
93	栽培エネルギーを削減するため、旬の食材を使用している。	36
80	ティーバッグでのお茶の給仕、提供を行っていない。	48
88	生ごみの水切りを行っている。	48
90	廃食油は適正に処理している業者に委託している。	70

3 - 1 - 2 ホテル・旅館別からみた【全面的に取り組んでいる】取り組み

ここではホテル・旅館という宿泊施設の形態別からみていく。

(1) エネルギー消費 (表3-2-1)

【ホテル】: 表3-2-1から最も取り組んでいる割合が高いのは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】の86%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【1 コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】の5%であることがわかる。

【旅館】: 表3-2-1から最も取り組んでいる割合が高いのは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】の74%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】の0%であることがわかる。

《比較》

【共通点】: 両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】という事である。

【相違点】: 最も取り組んでいる割合が低いのがホテルでは【1 コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】であり、旅館では5、カード・キーの導入により節電を実施している。】という事である。

表3-2-1 エネルギー消費 (ホテル・旅館)における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	エネルギー消費	ホテル (%)	旅館 (%)
1	コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。	5	3
2	自然エネルギー (太陽光の室内導入、通風の活用等) を積極的に活用している。	10	18
3	二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。	11	10
4	空調の適温化 (室内温度の設定を夏は28 以上に、冬は20 以下) を実施している。	14	26
5	カード・キーの導入により節電を実施している。	29	0
6	空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。	86	74
7	建物周辺、屋上等の緑化を実施している。	23	30
8	施設内の電球を電球型蛍光灯に変更している。	26	15
9	屋外で効率的な照明管理を行っている。	34	20
10	屋内で効率的な照明管理を行っている。	14	21
11	使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。	27	25
12	パソコン、コピー機等のOA機器は、使用しない時は電源を切っている。	43	50

(2) 水の使用 (表3-2-2)

【ホテル】: 表3-2-2から最も取り組んでいる割合が高いのは 【20、水道配管が

らの漏洩を定期的に点検している。】の68%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の5%であることがわかる。

【旅館：】表3-2-2から最も取り組んでいる割合が高いのは【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】の52%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の3%であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのも低いのも同じ取り組みであるという事である。最も取り組んでいる割合が高いのは【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】であり、最も取り組んでいる割合が低いのが【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】という事である。

表3-2-2 水の使用（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（%）

No.	水の使用	ホテル（%）	旅館（%）
13	各工程（調理、食器洗浄、洗濯、客室・パブリックスペース等の清掃、など）で工夫し、水の使用量の削減を実施している。	44	33
14	蛇口（客室内も含めて）に節水こま（適量の水を流すこま）を設置している。	30	13
15	一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。	43	13
16	手でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している	14	25
17	ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。	15	18
18	トイレに節水こま（タンク内に容器を沈める方法も可）を設置している。	20	23
19	その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。	29	8
20	水道配管からの漏洩を定期的に点検している。	68	52
21	女性用トイレに自動流水音装置を設置している。	5	3

（3）紙の使用（表3-2-3）

【ホテル】：表3-2-3から、最も取り組んでいる割合が高いのは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】の72%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】の15%であることがわかる。

【旅館：】表3-2-3から最も取り組んでいる割合が高いのは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】の59%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】の7%であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【23、使用済用紙の裏面を使用している。】であるという事である。

【相違点】：ホテルでは最も取り組んでいる割合が低いのが【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】であり、旅館では【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】という事である。

表3 - 2 - 3 紙の使用（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	紙の使用	ホテル（％）	旅館（％）
22	会議用資料や事務書類の簡素化、減少を実施している。	55	24
23	使用済用紙の裏面を使用している。	72	59
24	両面印刷・コピーを実施している（無駄な印刷を削減している）。	59	37
25	電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。	27	7
26	使用済み封筒の再利用を実施している。	50	35
27	トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。	15	15
28	トイレトーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。	29	17

（４）一般廃棄物（表3 - 2 - 4）

【ホテル】：表3 - 2 - 4 から最も取り組んでいる割合が高いのは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】の66％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の14％であることがわかる。

【旅館】：表3 - 2 - 4 から最も取り組んでいる割合が高いのは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】の59％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の5％であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのも低いのも同じ取り組みであるという事である。最も取り組んでいる割合が高いのが【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】であり、最も取り組んでいる割合が低いのが【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】という事である。

表3 - 2 - 4 一般廃棄物（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	一般廃棄物	ホテル（％）	旅館（％）
29	使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。	25	25
30	分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	47	18
31	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	66	59
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	36	17
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。	14	5
34	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	57	49
35	OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	47	48

（5）悪臭・騒音・振動（表3 - 2 - 5）

【ホテル】：表3 - 2 - 5 から最も取り組んでいる割合が高いのは【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】の81％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】の24％であることがわかる。

【旅館】：表3 - 2 - 5 から最も取り組んでいる割合が高いのは【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】の76％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】の18％であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのも低いのも同じ取り組みであるという事である。最も取り組んでいる割合が高いのは【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】であり、最も取り組んでいる割合が低いのが【38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】という事である。

表3 - 2 - 5 悪臭・騒音・振動（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	悪臭・騒音・振動	ホテル（％）	旅館（％）
36	悪臭防止のため排出口（換気口）の位置等の配慮を行なっている。	68	42
37	ゴミの保管、管理を適切に行っている。	81	76
38	低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。	24	18
39	夜間照明による光害を防止するための措置を講じている。	30	31

(6) グリーン購入 (表3 - 2 - 6)

【ホテル】: 表3 - 2 - 6 から最も取り組んでいる割合が高いのは【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】の24%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【41、環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。】の15%であることがわかる。

【旅館】: 表3 - 2 - 6 から最も取り組んでいる割合が高いのは【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】の28%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】の11%であることがわかる。

《比較》

【共通点】: 両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】という事である。

【相違点】: ホテルでは最も取り組んでいる割合が低いのが【41、環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。】であり、旅館では最も取り組んでいる割合が低いのが【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】という事である。

表3 - 2 - 6 グリーン購入 (ホテル・旅館) における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	グリーン購入	ホテル (%)	旅館 (%)
40	環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。	20	18
41	環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。	15	16
42	資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。	19	11
43	資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)	24	28

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出 (表3 - 2 - 7)

【ホテル】: 表3 - 2 - 7 から最も取り組んでいる割合が高いのは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】の65%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【47、使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】の0%であることがわかる。

【旅館】: 表3 - 2 - 7 から最も取り組んでいる割合が高いのは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】の47%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【46、PRTR 法に従い MSDS (化学物質安全性データシート) を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)】の7%であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】ということである。

【相違点】：ホテルでは最も取り組んでいる割合が低いのが【47、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】であり、旅館では最も取り組んでいる割合が低いのが【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】という事である。

表3 - 2 - 7 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出(ホテル・旅館)における面的に取り組んでいる割合(%)

【全

No.	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	ホテル(%)	旅館(%)
44	有害性の恐れのある化学物質は、種類・使用量・保管量・使用方法・保管場所等を記録している。	37	18
45	フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。	65	47
46	PRTR法に従いMSDS(化学物質安全性データシート)を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)	27	7
47	使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。	0	22
48	害虫駆除剤、芳香剤、防湿剤、消臭剤は自然素材のもの、使用の削減に努めている。	27	22
49	ポリ塩化ビフェニール(PCB)が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。	59	29
50	水質汚濁の少ない工程・機器(食器洗浄、調理、洗濯、清掃など)を工夫し、採用している。	37	26
51	日常の管理における水質汚濁防止への配慮(水質処理装置の設置等)を行なっている。	33	26

(8) 環境保全のための仕組み・体制(表3 - 2 - 8)

【ホテル】：表3 - 2 - 8から最も取り組んでいる割合が高いのは【59、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】の43%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】の0%であることがわかる。

【旅館】：表3 - 2 - 8から最も取り組んでいる割合が高いのは【59、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】の28%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【56、従業員の環境教育プログラムがある。】の5%であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【59、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】という事である。

【相違点】：ホテルでは最も取り組んでいる割合が低いのが【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】であり、旅館では最も取り組んでいる割合が低いのが【56、従業員の環境教育プログラム

がある。】という事である。

表3 - 2 - 8 環境保全のための仕組み・体制（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	環境保全のための仕組み・体制	ホテル（％）	旅館（％）
52	環境対応のための組織（役割分担や責任、権限など）が明確に定められている。	15	11
53	環境活動上必要な作業手順や運用基準が明確に定められている。	10	10
54	協力会社・関連会社・発注者等に環境保全の面から評価するとともに、その改善支援を行なっている。	5	11
55	委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている。	11	18
56	従業員の環境教育プログラムがある。	10	5
57	顧客・取引先・地域住民に自社の環境活動の取り組みについて広報し、理解と協力を得ている。	11	15
58	環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している	0	10
59	周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。	43	28
60	顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。	33	20

（9）客室（表3 - 2 - 9）

【ホテル】：表3 - 2 - 9から最も取り組んでいる割合が高いのは【70、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】の77%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【67、歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。】の10%であることがわかる。

【旅館】：表3 - 2 - 9から最も取り組んでいる割合が高いのは【70、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】の91%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【72、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。】の8%であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのが【70、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】という事である。

【相違点】：ホテルでは最も取り組んでいる割合が低いのが【67、歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。】であり、旅館では最も取り組んでいる割合が低いのは【72、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。】という事である。

表3 - 2 - 9 客室（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	客室	ホテル（％）	旅館（％）
61	客室ごとに空調管理ができる。	41	79
62	客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。	21	32
63	アメニティグッズの数を必要最低限にしている。	53	41
64	アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。	14	21
65	アメニティグッズの包装を簡易化している。	64	34
66	提供したアメニティグッズの内、使用されなかったグッズを再度提供している。	57	51
67	歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。	10	13
68	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	62	64
69	分別回収ボックスを設置し、リサイクルを実施している。	33	18
70	使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。	77	91
71	連泊客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。	23	28
72	顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。	25	8

（10）レストラン・厨房（表3 - 2 - 10）

【ホテル】：表3 - 2 - 10から最も取り組んでいる割合が高いのは【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】の88％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）乾燥減量化している。】の0％であることがわかる。

【旅館】：表3 - 2 - 10から最も取り組んでいる割合が高いのは【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】の63％であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）乾燥減量化している。】の5％であることがわかる。

《比較》

【共通点】：両施設とも最も取り組んでいる割合が高いのも低いのも同じ取り組みであるという事である。最も取り組んでいる割合が低いのが【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）乾燥減量化している。】であり、最も取り組んでいる割合が高いのが【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】という事である。

表3 - 2 - 10 レストラン・厨房（ホテル・旅館）における【全面的に取り組んでいる】割合（％）

No.	レストラン・厨房	ホテル(%)	旅館(%)
73	お食事時、追加のお茶、水の提供は顧客に尋ねてから注いでいる。	12	42
74	お食事メニュー、メモ、伝達事項は、黒板、ホワイトボード、回覧版の使用を実施している。	24	33
75	キッチンペーパーの使用量を削減している。	17	25
76	ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。	6	5
77	どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニルの食品ラップの代替を実施している。	44	24
78	通い箱（繰り返し使用する梱包材）を利用している。	31	23
79	ミルク、バター、砂糖、ジャム等の容器の個包装を廃止している。	12	21
80	ティーバッグでのお茶の給仕、提供を行っていない。	22	57
81	牛乳パック、食品トレーのリサイクルを実施している。	25	20
82	使い捨てのコースター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。	6	29
83	割り箸、使い捨て型食器類（皿、コップ、スプーン等）を廃止している。	6	7
84	割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。	13	8
85	お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものになっている。	18	12
86	食材の廃棄が少なくなるよう、残部の活用、調理・購入計画を見直している。	29	34
87	厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資材化・バイオガス化等）乾燥減量化している。	0	5
88	生ごみの水切りを行っている。	33	54
89	廃食油の劣化を防ぐ工夫をしている。	19	29
90	廃食油は適正に処理している業者に委託している。	88	63
91	天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。	25	13
92	輸送エネルギーを削減するため、近郊（地場）で採れた食材を使用している。	13	18
93	栽培エネルギーを削減するため、旬の食材を使用している。	41	33

3 - 1 - 3 中小規模・大規模別からみた【全面的に取り組んでいる】取り組み

ここでは、中小規模宿泊施設と大規模宿泊施設に焦点を当てて、【全面的に取り組んでいる】取り組みについてみていく。

(1) エネルギー消費(表3 - 3 - 1)

【中小規模】: 表3 - 3 - 1から最も取り組んでいる割合が高いのは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】の76%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】の4%であることがわかる。

【大規模】: 表3 - 3 - 1から最も取り組んでいる割合が高いのは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】の100%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】、【3、二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。】、【4、空調の適温化(室内温度の設定を夏は28以上に、冬は20以下)を実施している。】、【9、屋外で効率的な照明管理を行っている。】、【10、屋内で効率的な照明管理を行っている。】、【11、使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。】の0%であることがわかる。

表3 - 3 - 1 エネルギー消費(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	エネルギー消費	中小規模(%)	大規模(%)
1	コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。	4	0
2	自然エネルギー(太陽光の室内導入、通風の活用等)を積極的に活用している。	15	13
3	二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。	11	0
4	空調の適温化(室内温度の設定を夏は28以上に、冬は20以下)を実施している。	25	0
5	カード・キーの導入により節電を実施している。	9	13
6	空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。	76	100
7	建物周辺、屋上等の緑化を実施している。	29	13
8	施設内の電球を電球型蛍光灯に変更している。	17	25
9	屋外で効率的な照明管理を行っている。	27	0
10	屋内で効率的な照明管理を行っている。	20	0
11	使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。	25	0
12	パソコン、コピー機等のOA機器は、使用しない時は電源を切っている。	48	38

(2) 水の使用 (表3-3-2)

【中小規模】: 表3-3-2から最も取り組んでいる割合が高いのは【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】の52%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の2%であることがわかる。

【大規模】: 表3-3-2から最も取り組んでいる割合が高いのは【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】の87%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【14、蛇口(客室内も含めて)に節水こま(適量の水を流すこま)を設置している。】【16、手でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している。】【17、ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。】【19、その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。】【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の13%であることがわかる。

表3-3-2 水の使用(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	水の使用	中小規模(%)	大規模(%)
13	各工程(調理、食器洗浄、洗濯、客室・パブリックスペース等の清掃、など)で工夫し、水の使用量の削減を実施している。	37	33
14	蛇口(客室内も含めて)に節水こま(適量の水を流すこま)を設置している。	19	13
15	一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。	20	42
16	手でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している。	22	13
17	ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。	18	13
18	トイレに節水こま(タンク内に容器を沈める方法も可)を設置している。	25	25
19	その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。	15	13
20	水道配管からの漏洩を定期的に点検している。	52	87
21	女性用トイレに自動流水音装置を設置している。	2	13

(3) 紙の使用 (表3-3-3)

【中小規模】: 表3-3-3から最も取り組んでいる割合が高いのは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】の59%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】の11%であることがわかる。

【大規模】: 表3-3-3から最も取り組んでいる割合が高いのは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】の87%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】の25%であることがわかる。

表 3 - 3 - 3 紙の使用(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	紙の使用	中小規模(%)	大規模(%)
22	会議用資料や事務手続書類の簡素化、減少を実施している。	35	38
23	使用済み紙の裏面を使用している。	59	87
24	両面印刷・コピーを実施している(無駄な印刷を削減している)。	41	62
25	電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。	11	38
26	使用済み封筒の再利用を実施している。	37	62
27	トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。	13	25
28	トイレットペーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。	20	38

(4) 一般廃棄物(表 3 - 3 - 4)

【中小規模】: 表 3 - 3 - 4 から最も取り組んでいる割合が高いのは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】の58%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の7%であることがわかる。

【大規模】: 表 3 - 3 - 4 から最も取り組んでいる割合が高いのは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】、【34、コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。】、【35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。】の75%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の13%であることがわかる。

表 3 - 3 - 4 一般廃棄物(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	一般廃棄物	中小規模(%)	大規模(%)
29	使用する容器(飲料・洗剤等)の3割以上でリターナブル容器を使用している。	23	37
30	分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	23	75
31	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	58	75
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	20	49
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。	7	13
34	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	49	75
35	OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	44	75

(5) 悪臭・騒音・振動 (表 3 - 3 - 5)

【中小規模】: 表 3 - 3 - 5 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】の 75% であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】の 20% であることがわかる。

【大規模】: 表 3 - 3 - 5 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】の 87% であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】の 13% であることがわかる。

表 3 - 3 - 5 悪臭・騒音・振動(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	悪臭・騒音・振動	中小規模 (%)	大規模 (%)
36	悪臭防止のため排出口 (換気口) の位置等の配慮を行なっている。	47	72
37	ゴミの保管、管理を適切に行っている。	75	87
38	低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。	20	13
39	夜間照明による光害を防止するための措置を講じている。	26	57

(6) グリーン購入 (表 3 - 3 - 6)

【中小規模】: 表 3 - 3 - 6 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】の 28% であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】の 13% であることがわかる。

【大規模】: 表 3 - 3 - 6 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 40、環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。】の 29% であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 41、環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。】、【 42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】、【 43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】の 14% であることがわかる。

表 3 - 3 - 6 グリーン購入(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	グリーン購入	中小規模 (%)	大規模 (%)
40	環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。	17	29
41	環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。	15	14
42	資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。	13	14
43	資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)	28	14

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出(表3-3-7)

【中小規模】: 表3-3-7から最も取り組んでいる割合が高いのは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】の49%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【46、PRTR法に従いMSDS(化学物質安全性データシート)を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)】の9%であることがわかる。

【大規模】: 表3-3-7から最も取り組んでいる割合が高いのは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】の74%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【47、使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】の0%であることがわかる。

表3-3-7 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	中小規模(%)	大規模(%)
44	有害性の恐れのある化学物質は、種類・使用量・保管量・使用方法・保管場所等を記録している。	22	38
45	フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。	49	74
46	PRTR法に従いMSDS(化学物質安全性データシート)を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)	9	40
47	使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。	19	0
48	害虫駆除剤、芳香剤、防湿剤、消臭剤は自然素材のもの、使用の削減に努めている。	23	20
49	ポリ塩化ビフェニール(PCB)が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。	35	71
50	水質汚濁の少ない工程・機器(食器洗浄、調理、洗濯、清掃など)を工夫し、採用している。	29	29
51	日常の管理における水質汚濁防止への配慮(水質処理装置の設置等)を行なっている。	29	14

(8) 環境保全のための仕組み・体制 (表 3 - 3 - 8)

【中小規模】: 表 3 - 3 - 8 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 5 9、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】の 2 8 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 5 6、従業員の環境教育プログラムがある。】の 4 % であることがわかる。

【大規模】: 表 3 - 3 - 8 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 5 9、周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。】の 6 2 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 5 8、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している】の 0 % であることがわかる。

表 3 - 3 - 8 環境保全のための仕組み・体制(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合 (%)

No.	環境保全のための仕組み・体制	中小規模 (%)	大規模 (%)
52	環境対応のための組織 (役割分担や責任、権限など) が明確に定められている。	8	37
53	環境活動上必要な作業手順や運用基準が明確に定められている。	8	25
54	協力会社・関連会社・発注者等に環境保全の面から評価するとともに、その改善支援を行なっている。	8	14
55	委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている。	13	29
56	従業員の環境教育プログラムがある。	4	25
57	顧客・取引先・地域住民に自社の環境活動の取り組みについて広報し、理解と協力を得ている。	12	29
58	環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している	8	0
59	周辺地域の環境保全活動に積極的に協力している。	28	62
60	顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。	22	38

(9) 客室 (表 3 - 3 - 9)

【中小規模】: 表 3 - 3 - 9 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 7 0、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】の 7 0 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 7 2、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。】の 1 2 % であることがわかる。

【大規模】: 表 3 - 3 - 9 から最も取り組んでいる割合が高いのは【 6 5、アメニティグッズの包装を簡易化している。】の 7 4 % であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【 6 4、アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。】の 0 % であることがわかる。

表3 - 3 - 9 客室(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	客室	中小規模(%)	大規模(%)
61	客室ごとに空調管理ができる。	70	25
62	客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。	30	14
63	アメニティグッズの数を必要最低限にしている。	48	37
64	アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。	21	0
65	アメニティグッズの包装を簡易化している。	39	74
66	提供したアメニティグッズの内、使用されなかったグッズを再度提供している。	51	62
67	歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。	13	13
68	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	63	62
69	分別回収ボックスを設置し、リサイクルを実施している。	20	37
70	使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。	89	62
71	連泊客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。	27	25
72	顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関する意見、要望を問う項目を設けている。	12	25

(10) レストラン・厨房(表3 - 3 - 10)

【中小規模】:表3 - 3 - 10から最も取り組んでいる割合が高いのは【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】の70%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【87、厨芥、残飯を再資源化(堆肥化・資料化・バイオガス化等)乾燥減量化している。】の4%であることがわかる。

【大規模】:表3 - 3 - 10から最も取り組んでいる割合が高いのは【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】の86%であり、最も取り組んでいる割合が低いのは【76、ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。】【82、使い捨てのコースター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。】【87、厨芥、残飯を再資源化(堆肥化・資料化・バイオガス化等)乾燥減量化している。】【91、天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。】【92、輸送エネルギーを削減するため、近郊(地場)で採れた食材を使用している。】の0%であることがわかる。

表3-3-10 レストラン・厨房(中小規模・大規模)における【全面的に取り組んでいる】割合(%)

No.	レストラン・厨房	中小規模(%)	大規模(%)
73	お食事時、追加のお茶、水の提供は顧客に尋ねてから注いでいる。	38	14
74	お食事メニュー、メモ、伝達事項は、黒板、ホワイトボード、回覧版の使用を実施している。	31	29
75	キッチンペーパーの使用量を削減している。	21	29
76	ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。	6	0
77	どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニルの食品ラップの代替を実施している。	27	50
78	通い箱(繰り返し使用する梱包材)を利用している。	26	17
79	ミルク、バター、砂糖、ジャム等の容器の個包装を廃止している。	18	17
80	ティーバッグでのお茶の給仕、提供を行っていない。	46	57
81	牛乳パック、食品トレーのリサイクルを実施している。	19	40
82	使い捨てのコスター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。	26	0
83	割り箸、使い捨て型食器類(皿、コップ、スプーン等)を廃止している。	8	14
84	割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。	8	17
85	お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものになっている。	13	14
86	食材の廃棄が少なくなるよう、残部の活用、調理・購入計画を見直している。	31	43
87	厨芥、残飯を再資源化(堆肥化・資材化・バイオガス化等)乾燥減量化している。	4	0
88	生ごみの水切りを行っている。	50	29
89	廃食油の劣化を防ぐ工夫をしている。	27	17
90	廃食油は適正に処理している業者に委託している。	70	86
91	天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。	18	0
92	輸送エネルギーを削減するため、近郊(地場)で採れた食材を使用している。	18	0
93	栽培エネルギーを削減するため、旬の食材を使用している。	33	43

3 - 2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ

3 - 2 - 1 宿泊施設全体からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ

(1) エネルギー消費部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】や【12、パソコン、コピー機等のOA機器は、使用しない時は電源を切っている。】のような何の機械・装置がなくても手軽に取り組む事に出来る取り組みである。一方、取り組みにくいことは【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】や【10、二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。】などのような機械・装置を導入しなくては取り組めない事である。

(2) 水の使用部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【20、水道配管からの漏洩を定期的点検している。】のように点検・整備などを行なう取り組みであり、取り組みにくい事は【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】のような設備を節水型のような装置に変更しなくては取り組みことのできない取り組みである。

(3) 紙の使用部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【23、使用済用紙の裏面を使用している。】【26、使用済み封筒の再利用を実施している。】などのような新たに機械を導入しなくても取り組む事が出来、なお且つ取り組む事によるメリットが明確な取り組みである。

一方取り組みにくい事は、【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】や【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】のように機械を利用、または設備を変更しなくては取り組む事の出来ないことである。

(4) 一般廃棄物部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】や【34、コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。】【35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。】のようにリサイクルや取り組みメリットの明確な取り組みである。一方取り組みにくいことは【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】のような手間がとてかかるような取り組みである。

(5) 悪臭・騒音・振動部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】のように新しく機械・設備を導入しなくても取り組むことができる取り組みであることがわかる。

(6) グリーン購入、環境保全のための仕組み・体制部門における取り組み現状のまとめ

この2つの部門に関しては、ほとんど取り組まれていないことがわかる。【40、環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。】のようなグリーン購入や、【53、環境活動上必要な作業手順や運用基準が明確に定められている。】、【56、従業員の環境教育プログラムがある。】などの環境マネージャーなどの環境に配慮する体制は、宿泊施設においてはまだまだ整えられていないという事がわかる。

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】や【49、ポリ塩化ビフェニール（PCB）が含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。】のように特別難しい取り組みではない取り組みである。しかしながら、全体的に見ると化学物質に対しての意識が低いという事がわかる。

(8) 客室部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことはお客に負担がかからず、なお且つ取り組みによるメリットが明確な取り組みである。

一方では、お客に対して負担や不快感、不便さを与えてしまう可能性があると考えられる取り組みに対してはあまり取り組みが行なわれていない。宿泊施設はサービス業なので、お客のイメージが悪くなるとお客が来なくなり経営する事が困難になるのでこの部門の取り組みには細心の注意が必要である。

また、この部門の取り組みに対しては宿泊施設側だけでなく、お客側にも環境に対する配慮がないと成り立たないのではないかとと思われる。

(9) レストラン・厨房部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすいことは、他の業者に委託を行なうことや、取り組みにあまり手間の掛からないような取り組みである。この部門の取り組みは全体的に手間をかけたり、工夫をしたりすれば取り組むことが可能である取り組みが多い。しかし、宿泊施設における料理は量を多く作らなくてはならないので時間的に余裕がないと考えられる。したがって、環境に配慮する事によって不便になったり、時間が余分にかかったりする事を避けているのではないかとと思われる。また、他の業者に委託を行なう事に関して、少しコストがかかるが、時間的に余裕が出来るので取り組まれているのだと考えられる。

(1 0) 全体のまとめ

どの部門においても取り組まれている事は、取り組む事によるメリットが明確で、機械・設備を新しく導入しなくても取り組めることや、整備・点検を行えばよい事、他の業者に委託する事によって手間や時間を省く事が出来る事である事がいえる。一方、取り組まれている事は、機械導入などによりコストがかかることや、手間や時間が掛かる事である。他の業者に委託する事は、コストがかかる。しかし、コストがかかるが、手間や時間が省くことが出来るので取り組まれていると考えられる。

3 - 2 - 2 ホテル・旅館別からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ

(1) エネルギー消費部門における取り組み現状のまとめ

ホテルと旅館で大きく異なるのは【 5、カード・キーの導入により節電を実施している。】の取り組みが、ホテルでは29%のところ取り組んでいるのに対して旅館では0%であるということである。このことからカード・キーについて旅館という形態では取り組む事が困難であるということがわかる。

(2) 水の使用部門における取り組み現状のまとめ

ホテル・旅館ともに取り組みやすい取り組みは整備・点検などを行なうような取り組みである。一方取り組みにくい事は、設備を変更しなくては取り組むことが出来ない取り組みであるということがわかる。

(3) 紙の使用部門における取り組み現状のまとめ

ホテルと旅館で大きく異なるのは、【 22、会議用資料や事務書類の簡素化、減少を実施している。】の取り組みがホテルでは55%も取り組まれているのに対して、旅館ではその半分の24%しか取り組まれていない。この取り組みについては、ホテル、旅館の違いに関係なく少し工夫すれば取り組む事が可能であると思われるので、旅館においてもっと取り組む事が出来ると考えられる。

(4) 一般廃棄物部門における取り組み現状のまとめ

ホテルと旅館両施設において取り組みやすい事は【 31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】、【 34、コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。】である。このことから、取り組みやすい事は、宿泊形態に関係ないということがわかる。また、ホテルと旅館を比較すると大きな違いは見られないが、全体的にホテルのほうが全面的に取り組んでいる割合は高いということがわかる。

(5) 悪臭・騒音・振動部門における取り組み現状のまとめ

ホテル、旅館で特に大きな違いはみられない。どちらの宿泊施設も全体的に良く取り組んでいることがわかる。しかし、新しく機械を導入しなくては取り組むことが出来ない取り組みになると、取り組みの割合が低くなる。

(6) グリーン購入、環境保全のための仕組み・体制部門における取り組み現状のまとめ

グリーン購入部門に関しては、ホテル、旅館関係なくほとんど取り組まれていないことがわかる。環境保全のための仕組み・体制部門に関して、ホテルと旅館で大きく異なるのは、【 5 8、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】の取り組みがホテルでは0%であるということである。このことから、ホテルでは環境に配慮した観光ルート、観光の方法などの情報発信はまだまだ取り組まれていないことがわかる。

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出部門における取り組み現状のまとめ

ホテルと旅館で大きく異なるのは【 4 7、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】の取り組みがホテルでは0%であるということである。また、【 4 6、PRTR 法に従い MSDS（化学物質安全性データシート）を使用している。（ドライクリーニング液等に対して）】に関してはホテルでは27%、旅館では7%とどちらもほとんど取り組んでいない。このことから宿泊施設では化学物質があまり使われていないのか、PRTR 法についての知識があまりないということが考えられる。

(8) 客室部門における取り組み現状のまとめ

ホテル、旅館両方ともによく取り組んでいる。しかしながら、両宿泊施設ともにお客に負担、不便さ、不快感を与える可能性がある取り組みはあまり行なわれていないということがわかる。ホテルと旅館で大きく異なるのは【 6 1、客室ごとに空調管理ができる。】という取り組みである。これはホテルのほうが平均的に旅館よりも客室数が多いということが関係していると考えられる。

(9) レストラン・厨房部門における取り組み現状のまとめ

ホテル・旅館ともに取り組みやすい事は【 9 0、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】のような他の業者に委託する事によって取り組む事が出来て、自分たちでは手間や時間が掛からないような取り組みである。この部門の取り組みは全体的に手間を掛ける取り組みや、取り組む事によって時間が掛かる取り組みはあまり取り組まれない傾向にある。

(10) 全体のまとめ

ホテル・旅館両方とも取り組みやすい事は、メリットが明確である取り組みや、他業者に委託して手間や時間が掛からない取り組み、整備・点検などを行えばよい取り組みである事がわかる。両宿泊施設において特に大きな違いは見られないが、あまり取り組まれていない取り組みについては、ホテル・旅館という宿泊形態の違いが関係してくるような取り組みには若干違いが見られる。

3 - 2 - 3 中小規模・大規模別からみた環境配慮に対する取り組みの現状のまとめ

(1) エネルギー消費部門における取り組み現状のまとめ

取り組みやすい事は中小規模・大規模宿泊施設関係なく整備・点検を行なう取り組みであることがわかる。しかし、全体的にみると、中小規模・大規模宿泊施設という規模に関係なくあまり取り組まれていない事がわかる。

(2) 水の使用部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設関係なく整備・点検を行なう取り組みは行なわれている。しかし、あまり取り組まれていない取り組みを見ると、節水するための設備を整えないと取り組むことが出来ない取り組みが大部分を占めているということがわかる。このことから中小規模・大規模宿泊施設関係なく設備を新しく導入する事は取り組みにくいという事がいえる。

(3) 紙の使用部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設両方とも良く取り組んでいる。これは、この部門の取り組みが【23、使用済用紙の裏面を使用している。】【26、使用済み封筒の再利用を実施している。】などのような機械や設備を新たに導入しなくても取り組む事が出来る取り組みが多いからだと考えられる。なかでも大規模宿泊施設は1項目を除いて全ての項目で30%以上のところが取り組んでいる。このことから、紙の使用に関しては大規模宿泊施設のほうが中小規模よりも積極的にとりくんでいるということがいえる。

(4) 一般廃棄物部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設で大きく違うのは、【30、分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。】中小規模23%に対して大規模75%、【35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。】中小規模44%に対して大規模75%からわかるように、大規模宿泊施設の方がリサイクルに対する意識が高く、取り組みも進んでいるということである。

(5) 悪臭・騒音・振動部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設関係なく保管・管理などを行なう取り組みは取り組んでいる。しかし、新しく機械を導入しなくては取り組むことが出来ないものは取り組みがあまりなされていない事がわかる。

また、中小規模・大規模宿泊施設で大きく異なるのは、【39、夜間照明による光害を防止するための措置を講じている。】中小規模が26%、大規模が57%と、大規模が中小規模の2倍以上のところに取り組んでいるという事である。このことは、大規模な宿泊施設ほどライトアップなどで照明を用いる範囲広がったり、光量が増加したりするので、周辺に迷惑がかかることを考慮しているからだと考えられる。

(6) グリーン購入、環境保全のための仕組み・体制部門における取り組み現状のまとめ

この2つの部門に関しては、宿泊施設の規模に関係なくほとんど取り組まれていないことがわかる。

また、中小規模・大規模宿泊施設で大きく異なるのは、【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】の取り組みが大規模宿泊施設では0%であるということである。このことから、大規模宿泊施設では環境に配慮した観光ルート、観光の方法などの情報発信はまだまだ取り組まれていないことがわかる。

(7) 化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設で大きく異なるのは、【47、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】が大規模では0%であるということである。これは、大規模宿泊施設になればなるほど、手間を省き、時間を掛けない取り組みを行なわないと、宿泊施設の運営が困難になるからだと考えられる。

全体的に見ると中小規模・大規模宿泊施設関係なく化学物質に対しての意識が低いという事がわかる。

(8) 客室部門における取り組み現状のまとめ

この部門では中小規模・大規模宿泊施設両方とも全体的に取り組まれている。しかしながら、お客に対して負担や不快感、不便さを与えてしまう可能性があると考えられる取り組みに対してはあまり取り組みが行なわれていない。また、中小規模・大規模宿泊施設で大きく異なる事は【61、客室ごとに空調管理ができる。】が中小規模は70%なのに対し大規模では25%しか取り組まれていないことである。これは大規模になるにつれ客室数が増えるので客室一つ一つを管理する事が困難になるためだと考えられる。

(9) レストラン・厨房部門における取り組み現状のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設両方ともともに全面的にあまり取り組まれていない。この部門の取り組みは全体的に手間を掛ける、または工夫をすれば取り組むことが可能である取り組みが多いので、さらに取り組んでいくことが可能であると考えられる。しかし、大規模になればなるほど作る料理の量は増え、時間的余裕が無くなり環境に配慮する事が困難になるということも考えられる。

(10) 全体のまとめ

中小規模・大規模宿泊施設両方とも取り組みやすい事は、メリットが明確である取り組みや、他業者に委託して手間や時間が掛からない取り組み、整備・点検などを行えばよい取り組みである事がわかる。全体的に見ると、大規模宿泊施設の方が環境に配慮した取り組みを行なっているように思われる。しかし、大規模宿泊施設では取り組みが0%である取り組みが、中小規模よりも多い。このことは、大規模になればなるほど、取り組みを行なう規模が大きくなり、費用的にも時間的にも余裕が無く取り組めていないという事も考えられる。

第4章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質の明確化

4-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状から見た宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質

この章では、第3章で明らかになった宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の性質に焦点をあてる。その中でも【全面的に取り組んでいる】割合の最も高い取り組み、【全面的に取り組んでいる】割合の最も低い取り組みに注目して宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質を明確にする。

4-1-1 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（宿泊施設全体）

3-1-1の各部門ごとの【全面的に取り組んでいる】取り組みの割合が最も低い項目に注目する。

表3-1-1の【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】、表3-1-2の【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】、表3-1-3の【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】、表3-1-5の【38、低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置等の実施により騒音・振動管理を行なっている。】、表3-1-7の【47、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】、などの取り組みをみると、これらの取り組みに共通している事は新しく機械又は設備などを導入しなければ取り組む事が出来ない取り組みであることであることがわかる。

表3-1-4の【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】、表3-1-9の【67歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。】、【72、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関しての意見、要望を問う項目を設けている。】、表3-1-10の【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）乾燥減量化している。】などの取り組みに共通していることは、手間や工夫が必要となる取り組みである事やお客に何らかの負担を与える可能性がある取り組みであるという事である。

表3-1-6の【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】、表3-1-8の【56、従業員の環境教育プログラムがある。】、【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している】などの取り組みは宿泊施設のメリットにあまり直接関係しておらず、環境配慮に特化している取り組みであると思われる事が共通している。

次に【**全面的に取り組んでいる**】**取り組みの割合が高い項目に注目する。**

表3-1-1の【6、空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。】、表3-1-2の【20、水道配管からの漏洩を定期的に点検している。】、表3-1-5の【37、ゴミの保管、管理を適切に行っている。】などの取り組みを見ると点検、保管など定期的に行なわなくてはならない取り組みである事がわかる。

表3-1-3の【23、使用済用紙の裏面を使用している。】、表3-1-4の【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】、表3-1-7の【70、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】などの取り組みを見ると機械や設備がなくともすぐに取り組むことができ、なお且つ取り組むことによるメリットが明確であるということがわかる。

表3-1-7の【45、フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】、表3-1-10の【90、廃食油は適正に処理している業者に委託している。】は自ら直接取り組むのではなく他の業者に依頼、委託する取り組みであるということがわかる。

4-1-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（ホテル・旅館の違い）

まず、3-1-2のなかで**最も取り組まれている割合が最も高い取り組みに注目すると**ホテル、旅館の両方の宿泊施設において最も取り組まれていることは全ての部門において同じであるという結果が出ている。このことから、ホテル、旅館という宿泊施設の形態の違いというものは、宿泊施設にとっての【最も取り組みやすい】取り組みにはあまり関係がないという事がいえる。

次にホテル、旅館別に最も取り組まれている割合が低い取り組みに注目し、その中でも**最も取り組まれている割合が低い取り組みが異なるものを部門別に見る。**異なる取り組みがみられたのは【エネルギー消費】、【紙の使用】、【グリーン購入】、【化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出】、【環境保全のための仕組み・体制】、【客室】の6部門であった。

(1)【エネルギー消費】

表3-2-1をみるとホテルでは【1 コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】、旅館では【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。【1 コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】については旅館でもほとんど取り組まれていない。また、【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】についてはホテルでは約30%のところに取り組んでいる。このことからカード・キーという設備についてはホテルの形態特有の取り組みであり、旅館の形態では取り組むことの出来ない取り組みであると思われる。

(2)【紙の使用】

表3-2-3をみるとホテルでは【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】が旅館では【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。

【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】に関しては旅館でもホテルと同じ割合しか取り組んでいない。しかし、【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】に関しては27%のホテルが取り組んでいる。このことから、ホテルの方が旅館より電子メディアの利用が進んでいると考えられる。

(3)【グリーン購入】

表3-2-6をみるとホテルでは【41、環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。】が旅館では【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。

しかし、グリーン購入部門に関しては、どの取り組みも30%以下しか取り組んでおらず、ホテルも旅館もグリーン購入にはあまり取り組んでいないことがわかる。

(4)【化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出】

表3-2-7をみるとホテルでは【47、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】が旅館では【46、PRTR法に従いMSDS（化学物質安全性データシート）を使用している。（ドライクリーニング液等に対して）】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。

【46、PRTR法に従いMSDS（化学物質安全性データシート）を使用している。（ドライクリーニング液等に対して）】に関してはホテルでも25%しか取り組まれていない。これはPRTR法に関する情報があまり認識されていないからであると考えられる。

【47、使用（食器洗浄、洗濯、清掃など）する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】に関してはホテルでは0%である。これは大量の食器などを洗浄するときには、いかにコストが低く、汚れが落ちるかという事に固執するために環境負荷については二の次にされているという事が考えられる。

(5)【環境保全のための仕組み・体制】

表3-2-8をみるとホテルでは【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】が旅館では【56、従業員の環境教育プログラムがある。】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。この部門に関しては最も取り組まれていない取り組み以外の取り組みに関しても、取り組まれている割合は全体的に低くなっている。このことから、ホテル、旅館関係なく宿

泊施設では環境保全のための仕組み・体制はあまり出来ていないという事がわかる。

(6)【客室】

表3-2-9をみるとホテルでは【67、歯ブラシ、かみそりの希望者のみの提供又は使用後のリサイクルを実施している。】が旅館では【72、顧客アンケートに環境活動・アメニティグッズに関しての意見、要望を問う項目を設けている。】が最も取り組まれている割合の低い取り組みとなっている。これらを見ると、ホテルと旅館という宿泊施設の形態の違いに関係なく、お客に対して何らかの不快感を与える可能性があるような取り組みはあまり取り組まれていないことがわかる。

以上のように、最も取り組まれている割合が低い取り組みが、それぞれの部門ごとに異なった取り組みになっていることをみると、取り組みにくい取り組みの中には、ホテルと旅館という宿泊施設の形態の違いが関係してくる取り組みも若干あるという事が考えられる。

4-1-3 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（規模による違い）

3-1-3の中で【全面的に取り組んでいる】割合が最も高い取り組みをみると最も取り組まれている取り組みは中小規模と大規模宿泊施設とでほとんどが同じ取り組みであった。しかし、【一般廃棄物】、【客室】、【グリーン購入】の3部門では取り組みが異なっていたのでこの3部門に注目してみていく。

(1)【一般廃棄物】

表3-3-4をみると【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】は中小規模、大規模宿泊施設の両方とも取り組んでいた。しかし、大規模宿泊施設ではさらに【34、コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。】、【35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。】という取り組みを行っていることがわかる。このことからこの部門に関して大規模宿泊施設では分別回収、リサイクルが積極的に取り組まれていることがわかる。

(2)【客室】

表3-3-9をみると中小規模宿泊施設は【70、使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】、大規模宿泊施設は【65、アメニティグッズの包装を簡易化している。】という取り組みが最も行われている。これら二つの取り組みを見ると両方とも取り組むことによるメリットが明確であるという事がわかる。

(3)【グリーン購入】

表3-3-6をみると中小規模宿泊施設は【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】であり、大規模宿泊施設は【40、環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。】と異なっていたが、全体的にみるとそれぞれ28%、29%とかなり低い割合でしか取り組まれていない。このことから、中小規模、大規模宿泊施設に関係なくグリーン購入部門は取り組まれていないことがわかる。

次に【全面的に取り組んでいる】割合が最も低い取り組みをみる。その中でも【エネルギー消費】、【水の使用】、【紙の使用】、【グリーン購入】、【化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出】、【環境保全のために仕組み・体制】、【客室】、【レストラン・厨房】の8部門で取り組みが異なるのでこの8部門に注目する。

(1)【エネルギー消費】

表3-3-1をみると中小規模宿泊施設は【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】が最も取り組まれていないのに対して、大規模宿泊施設は【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】、【3、二重窓・扉の設置、フィルム貼り等により建物の気密性、断熱性を向上させている。】、【4、空調の適温化(室内温度の設定を夏は28以上、冬は20以下)を実施している。】、【9、屋外で効率的な照明管理を行っている。】、【10、屋内で効率的な照明管理を行っている。】、【11、使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。】のように6項目が0%で全く取り組んでいない。このことから大規模宿泊施設は【エネルギー消費部門】に関しては全く取り組まれていない取り組みが多い事がわかる。このことは、大規模になればなるほど、取り組みを行なう規模が大きくなり、費用的にも時間的にも余裕が無く取り組めていないという事も考えられる。

(2)【水の使用】

表3-3-2をみると中小規模宿泊施設は【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】が、大規模宿泊施設は【14、蛇口(客室内も含めて)に節水こま(適量の水を流すこま)を設置している。】、【16、手元でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している。】、【17、ワンハンドの混合栓、シングルレバーを設置している。】、【19、その他節水型の機器、トイレ、シャワー等の使用を実施している。】、【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】の5項目が最も取り組まれていない。

このことをみると、中小規模、大規模宿泊施設関係なく水の使用部門では何らかの機械又は設備を導入しなくては取り組めない項目が多いことがわかる。

(3)【紙の使用】

表3-3-3をみると中小規模宿泊施設は【25、電子メディア等の利用によるペーパーレス化を実施している。】が、大規模宿泊施設では【27、トイレ内のペーパータオルの使用を止めるか、回転式の布タオル等を採用する。】が最も取り組まれていない取り組みである。このことから、宿泊施設の規模に関係なく設備を整えなくては取り組むことが出来ない取り組みはあまりとりくまれないということがわかる。

(4)【グリーン購入】

表3-3-6をみると中小規模宿泊施設では【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】が、大規模宿泊施設では【41、環境に配慮された調度品・備品を購入・使用している。】【42、資材購入に当たり、環境配慮のチェックを行なっている。】【43、資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)】が最も取り組まれていないが、他の取り組みを見ると大半が20%以下しか取り組まれていない。このことから中小規模、大規模宿泊施設に関係なくグリーン購入部門は取り組まれていないことがわかる。

(5)【化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出】

表3-3-7をみると中小規模宿泊施設は【46、PRTR法に従いMSDS(化学物質安全性データシート)を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)】が、大規模宿泊施設は【47、使用(食器洗浄、洗濯、清掃など)する洗剤は環境負荷の少ない粉石鹼等を採用している。】が最も取り組まれていない。【46、PRTR法に従いMSDS(化学物質安全性データシート)を使用している。(ドライクリーニング液等に対して)】に関して大規模宿泊施設では40%が取り組んでいる。しかしPRTR法というのは法律なので、両宿泊施設ともなぜこのように低い取り組み割合であるか疑問である。化学物質を全く使用していないのか、PRTR法に関する知識が全く無いのかのどちらかであると考えられる。

(6)【環境保全のために仕組み・体制】

表3-3-8をみると中小規模宿泊施設は【56、従業員の環境教育プログラムがある。】が、大規模宿泊施設は【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】が最も取り組まれていない。【56、従業員の環境教育プログラムがある。】について大規模宿泊施設は25%と中小規模宿泊施設の約6倍も取り組んでいる。このことから大規模な宿泊施設ほど環境教育のプログラムが構築されているという事がわかる。

【58、環境に配慮された観光ルート、観光方法、滞在方法などエコツーリズムに関する情報を顧客に紹介している。】に関しては大規模宿泊施設が0%、中小規模宿泊施設は8%と低い割合でしか取り組まれていない。このことから宿泊施設の規模に関係なく宿泊施設

ではただ宿泊してもらっただけで、環境に配慮した観光ルート、観光の方法などの情報発信はまだまだ取り組まれていないことがわかる。

(7)【レストラン・厨房】

表3-3-9をみると中小規模宿泊施設は【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）、乾燥減量化している。】が最も取り組まれていないのに対して大規模宿泊施設は【76、ラップの使用を削減又は全廃し、耐熱用、レンジ用容器を使用している。】、【82、使い捨てのコースター、おしぼり、ペーパーナプキン、ストロー等を廃止している。】、【87、厨芥、残飯を再資源化（堆肥化・資料化・バイオガス化等）、乾燥減量化している。】、【91、天然又は、有害性の恐れのない養殖、飼育、栽培法を採用した調味料、肉、魚介類また、有機肥料、無農薬、減農薬野菜を使用している。】、【92、輸送エネルギーを削減するため、近郊（地場）で採れた食材を使用している。】が0%で取り組まれていない。

このことから大規模宿泊施設になればなるほど、レストラン・厨房での手間を省き、時間を掛けないようしようとしていると考えられる。

4-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状からみた宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質のまとめ

宿泊施設全体、ホテル・旅館別、中小規模・大規模宿泊施設別における環境配慮に対する取り組みの性質を総合して考察する。ここでは、【全面的に取り組んでいる】割合が高いということは、取り組みやすいという事、【全面的に取り組んでいる】割合が低いということは、取り組みにくいという事と考える。

【全面的に取り組んでいる】割合が高い（取り組みやすい）取り組みについては、宿泊施設の形態や規模にはあまり関係がない。これらの取り組みの性質としては、大きく3つのタイプに分類する事が出来る事がわかった。点検・整備型、メリット明確型、他業者依存型の3つのタイプである。

【全面的に取り組んでいる】割合が低い（取り組みにくい）取り組みについても、宿泊施設の形態や規模によって多少の違いがみられるものの、全体的な傾向としては同じであるという事が言える。これらの取り組みの性質としては、お客負担型、環境配慮特化型、手間・工夫必要型、機械・設備導入型の4つのタイプである。

以上に挙げた7つのタイプについては以下の表4-2での説明の通りである。（表4-2の例は一部である。）

表4-2 宿泊施設における環境配慮に対する取り組み性質のタイプの説明
 (取り組み項目のとなりの(%)の数値は全面的に取り組んでいる割合である)

例	取り組みやすい性質	説明
使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。(84%)	メリット明確型	取り組むことによるメリットが明確である取り組み
ゴミの保管、管理を適切に行っている。(77%)		
使用済用紙の裏面を使用している。(63%)		
石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。(62%)		
空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的を実施している。(79%)	点検・整備型	点検や整備、管理、処理を行なう取り組み
客室ごとに空調管理ができる。(65%)		
水道配管からの漏洩を定期的に点検している。(55%)		
悪臭防止のため排出口(換気口)の位置等の配慮を行なっている。(51%)	他業者依存型	他の業者に作業を依頼、委託する取り組み
廃食油は適正に処理している業者に委託している。(70%)		
フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。(51%)		
例	取り組みにくい性質	説明
客室内で、リターナブルビンでの酒類、ジュース等の導入を実施している。(27%)	お客負担型	お客に何らかの負担、不快感などを与える可能性のある取り組み
連泊客にタオル、シーツ、浴衣等の希望交換制を採用している。(27%)		
空調の適温化(室内温度の設定を夏は28度以上に、冬は20度以下)を実施している。(21%)		
アメニティグッズは品質、耐久性を高め、顧客が持ち帰るように促している。(18%)		
資材購入先、廃棄物処理委託業者に対し環境配慮を要請している。(又は環境配慮している業者を選んでいる)(26%)	環境配慮特化型	グリーン購入や環境保全の仕組みなど環境配慮に特化した取り組み
顧客、従業員のマイカーの利用を控えるよう奨励している。(23%)		
環境に配慮された設備・機器を購入・使用している。(18%)		
委託契約等に環境配慮が契約管理に組み込まれている。(15%)		
どうしてもラップを使用する場合、塩化ビニルの食品ラップの代替を実施している。(29%)	手間・工夫必要型	手間や時間を掛けたり、工夫を必要とする取り組み
水質汚濁の少ない工程・機器(食器洗浄、調理、洗濯、清掃など)を工夫し、採用している。(28%)		
日常の管理における水質汚濁防止への配慮(水質処理装置の設置等)を行なっている。(27%)		
使用エネルギーを必要なブロック、時間ごとに個別管理している。(25%)		
建物周辺、屋上等の緑化を実施している。(27%)	機械・設備導入型	何らかの機械・設備を導入しなくては出来ない取り組み
屋外で効率的な照明管理を行っている。(24%)		
手元でシャワースイッチを開閉出来るものを設置している(22%)		
トイレトーパーは、芯なしのシングル巻き、再生紙を採用する。(22%)		

第5章 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの評価システムの提案

本章では、3章での現状把握、4章での性質の明確化に基づき、宿泊施設において環境に配慮した取り組みが促進される（裾野を広げる）ための、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案する。ここでの評価というのは相対評価であるので、基本的に他の宿泊施設が出来る事は、他の宿泊施設でも取り組む事が可能であると考えている。

5 - 1 評価システムの概要

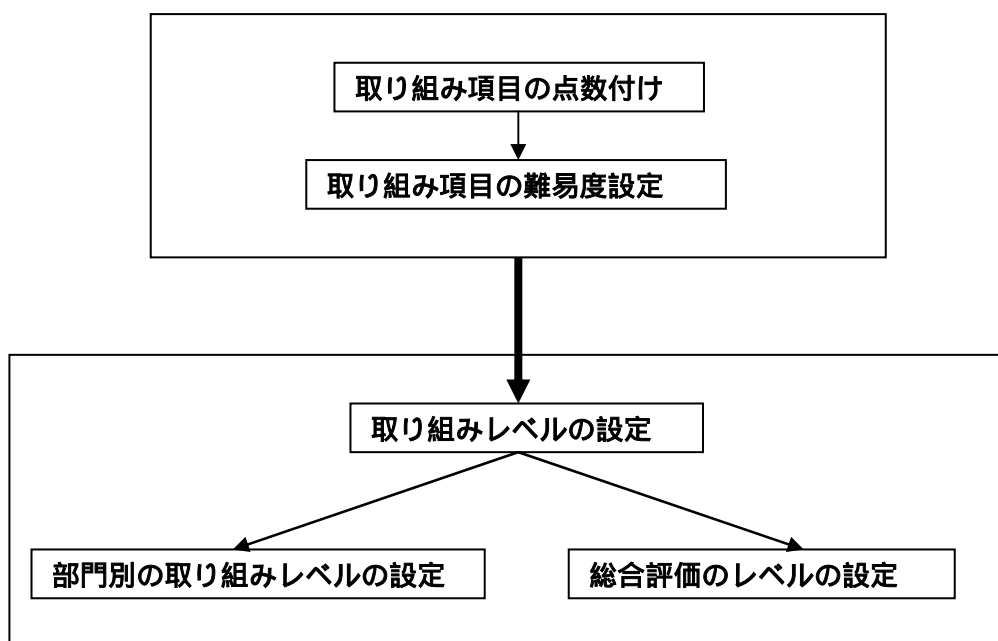
評価のシステムとしては、評価シートの取り組み項目別に対象となる宿泊施設自身に、【全面的に取り組んでいる】、【一部取り組んでいる】、【さらに取り組む】、【取り組んでいない】、【今後取り組む予定】のいずれかにチェックしてもらい、そして評価シートを回収し、第3者が取り組みにお応じて点数を付ける。これを各部門ごとに行い、各部門ごとの取り組みを点数化し、その点数に応じて取り組みレベルを認定する。

最終的には各部門の取り組みレベルを総合評価し、対象となる宿泊施設がどのくらい環境に配慮した宿泊施設かを評価する。そして、宿泊施設自体のレベルを認定する。

詳しくは、5 - 2 評価システムの仕組みで説明する。

5 - 2 評価システムの仕組み

<評価システムの仕組みのフロー図>



(2) 取り組み項目における点数付けの根拠

- ・ 『全面的に取り組んでいるの点数』については出来るだけ調査の結果を反映させるため、また取り組み項目ごとの難易度の違いを考慮するために5 - 2 - 2のようにした。
- ・ 『一部取り組んでいるの点数』については【一部取り組んでいる】には取り組みのレベルが高い宿泊施設とあまり高くない宿泊施設の差が大幅に生じる。したがってその中間を取って『全面的に取り組んでいるの点数』の1/2と設定した。
- ・ 『さらに取り組むの点数』は全部統一して 点としてしまつては、難易度の高い項目をさらに取り組もうと考えている宿泊施設と、難易度の低い項目をさらに取り組もうと考えている宿泊施設では苦勞の度合い、また環境に対する意識のレベルが異なるので難易度の高い順に0.5、0.4、0.3、0.2と設定した。
- ・ 『今後取り組む予定の点数』は現時点としてはその項目について全く取り組んでいないが、取り組む意欲を評価して全て0.1と設定した。取り組む予定も無い、環境に対する意識が低い宿泊施設と差をつけるためである。

(3) 取り組み項目の点数付けの具体例

取り組み項目の【全面的に取り組んでいる】、【一部取り組んでいる】、【さらに取り組む】、【取り組んでいない】、【今後取り組む予定】に応じて点数を付ける。点数は取り組み項目ごとに異なっている。

以下に宿泊施設 A における一般廃棄部門の具体例を挙げて説明する。

【例：宿泊施設 A における一般廃棄物部門の得点】

【評価シートの結果】

<一般廃棄物>

取り組み状況	全面的に取り組んでいる	一部取り組んでいる		さらに取り組む	取り組んでいない	取り組んでいない理由	今後取り組み予定
29、使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。		*					
30、分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。					*		
31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。		*					
32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。					*		
33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行っている。		*					
34、コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	*						
35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。		*		*			

$$29、 7.6 \times 1/2 = 3.8$$

$$31、 4.1 \times 1/2 = 2.05$$

$$33、 9.0 \times 1/2 = 4.5$$

$$35、 5.3 \times 1/2 + 0.3 = 2.95$$

（基本となる得点は表5 - 2 - 3の得点表参照）

【点数】

	一般廃棄物	点数
29	使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。	3.8
30	分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	0
31	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	2.05
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	0
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行っている。	4.5
34	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	4.8
35	OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	2.95

【例：宿泊施設 A における一般廃棄物部門の得点】をみると【29、使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。】、【31、石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。】、【32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。】という項目は【一部取り組んでいる】だけにチェックしているので全面的に取り組んでいるの点数の2分の1になっている。【35、OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。】は【一部取り組んでいる】と【さらに取り組む】にチェックしているので $5.3 \times 1/2 + 0.3 = 2.95$ になっている。（表5 - 2 - 4参照）
この例のように全ての部門について同じ評価方法で行う。

表5 - 2 - 4 一般廃棄物の得点表

	一般廃棄物	全面的に取り組んでいる	一部取り組んでいる	一部取り組んでいるさらに取り組む
29	使用する容器（飲料・洗剤等）の3割以上でリターナブル容器を使用している。	7.6	3.8	4.2
30	分別回収ボックスにより、ゴミの分別を徹底し、リサイクルを促進している。	7	3.5	3.8
31	石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。	4.1	2.05	2.25
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	7.5	3.75	4.15
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行っている。	9	4.5	4.9
34	コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。	4.8	2.4	2.6
35	OA用紙、新聞雑誌ダンボールについて分別回収しリサイクルしている。	5.3	2.65	2.95

5 - 2 - 2 取り組みレベルの設定

5 - 2 - 2 で使用する平均値というのは、5 - 2 - 1 で説明した点数付けに基づいて、部門別の点数の計算を行ったものの全体の平均をとったもののことである。取り組みレベルの設定は以下のような手法で行った。

(1) 部門別の取り組みレベルの設定 (X は各宿泊施設における部門別の項目の合計点数)

これは各部門ごとの取り組みのレベルである。

レベル1 : X (平均値 - 標準偏差)

レベル2 : (平均値 - 標準偏差) X < (平均値)

レベル3 : (平均値) X < (平均値 + 標準偏差)

レベル4 : (平均値 + 標準偏差) X < (平均値 + 標準偏差 × 2)

レベル5 : (平均値 + 標準偏差 × 2) < X

(平均値 + 標準偏差 × 2) が【全ての項目が全面的に取り組んでいる時の点数】(満点) より大きい場合は以下のようにする。

レベル4 : (平均値 + 標準偏差) X < 【全ての項目が全面的に取り組んでいる時の点数】(満点)

レベル5 : 【全ての項目が全面的に取り組んでいる時の点数】(満点) < X とする。

(表5 - 2 - 2 (1) 参照)

表5 - 2 - 2 (1) 部門別のレベル設定表

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	X 15.79	15.79 X < 31.70	31.70 X < 47.60	47.60 X < 63.51	63.51 X
水の使用	X 8.360	8.360 X < 22.03	22.03 X < 35.69	35.69 X < 49.36	49.36 X
紙の使用	X 10.05	10.05 X < 20.77	20.77 X < 31.50	31.50 X < 42.23	42.23 X
一般廃棄物	X 11.10	11.10 X < 21.11	21.11 X < 31.12	31.12 X < 41.12	41.12 X
騒音・振動	X 4.350	4.350 X < 11.09	11.09 X < 17.83	17.83 X < 22.20	22.20 X
グリーン購入	X 1.040	1.040 X < 11.42	11.42 X < 21.80	21.80 X < 32.18	32.18 X
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	X 6.120	6.120 X < 20.27	20.27 X < 34.41	34.41 X < 48.56	48.56 X
環境保全のための仕組み・体制	X 0.290	0.290 X < 19.16	19.16 X < 38.02	38.02 X < 56.89	56.89 X
客室	X 16.20	16.20 X < 29.87	29.87 X < 43.53	43.53 X < 57.19	57.19 X
レストラン・厨房	X 25.41	25.41 X < 55.36	55.36 X < 85.30	85.30 X < 115.24	115.24 X

(2) 総合評価のレベルの設定

総合評価のレベルの設定とは宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを、総合的に評価し、対象となる宿泊施設全体（宿泊施設自体）のレベルを設定する。評価の手法としては5 - 2 - 2 (1) 部門別のレベルの設定と同じ計算方法を用いる。計算式は以下の通りである。また表5 - 2 - 2 (2) は総合評価におけるレベル設定の範囲である。(X は各宿泊施設における全部門の項目の合計点数)

- : X (平均値 - 標準偏差)
- : (平均値 - 標準偏差) < X < (平均値)
- : (平均値) < X < (平均値 + 標準偏差)
- : (平均値 + 標準偏差) < X < (平均値 + 標準偏差 × 2)
- : (平均値 + 標準偏差 × 2) < X

表 5 - 2 - 2 (2) 総合評価のレベル設定表

総合評価	X < 139.15	139.15 < X < 242.76	242.76 < X < 346.37	346.37 < X < 449.99	449.99 < X

5 - 3 評価システムによる調査結果

5 - 3 - 1 宿泊施設における取り組みレベルの結果（部門別）

本章では宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの評価システムを提案した。そして実際に本研究で調査した宿泊施設についてこの評価システムを用いて評価を行った。

表 5 - 3 - 1 の宿泊施設（9件）における
部門別の取り組みレベル（件）の数は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	5 (55)	3 (33)	1 (11)	0	0
水の使用	6 (67)	3 (33)	0	0	0
紙の使用	4 (44)	5 (55)	0	0	0
一般廃棄物	7 (78)	2 (22)	0	0	0
悪臭・騒音・振動	5 (56)	4 (44)	0	0	0
グリーン購入	5 (56)	4 (44)	0	0	0
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	8 (89)	0	1 (11)	0	0
環境保全のための仕組み・体制	4 (44)	5 (55)	0	0	0
客室	6 (67)	2 (22)	1 (11)	0	0
レストラン・厨房	5 (55)	2 (22)	2 (22)	0	0

表 5 - 3 - 2 の宿泊施設（26件）における部門別の取り組みレベル（件）の数は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	5 (8)	13 (50)	7 (27)	1 (4)	0
水の使用	4 (15)	14 (54)	4 (15)	4 (15)	0
紙の使用	6 (23)	6 (23)	12 (46)	2 (8)	0
一般廃棄物	3 (12)	14 (54)	7 (27)	2 (8)	0
悪臭・騒音・振動	6 (23)	11 (42)	5 (8)	3 (12)	1 (4)
グリーン購入	10 (38)	6 (23)	8 (31)	1 (4)	1 (4)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	6 (23)	11 (42)	9 (35)	0	0
環境保全のための仕組み・体制	5 (8)	17 (65)	4 (15)	0	0
客室	3 (12)	11 (42)	10 (38)	2 (8)	0
レストラン・厨房	3 (12)	18 (69)	3 (12)	2 (8)	0

表 5 - 3 - 3 の宿泊施設（22件）における部門別の取り組みレベル（件）の数は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	0	8 (36)	13 (59)	1 (5)	0
水の使用	2 (9)	10 (45)	7 (32)	3 (14)	0
紙の使用	0	10 (45)	9 (41)	1 (5)	2 (9)
一般廃棄物	2 (9)	4 (18)	10 (45)	6 (27)	0
悪臭・騒音・振動	1 (5)	5 (23)	11 (50)	2 (9)	3 (14)
グリーン購入	6 (27)	1 (5)	12 (55)	2 (9)	1 (5)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	1 (5)	5 (23)	13 (59)	3 (14)	0
環境保全のための仕組み・体制	0	8 (36)	12 (55)	1 (5)	1 (5)
客室	0	11 (50)	11 (50)	0	0
レストラン・厨房	1 (5)	6 (27)	12 (55)	3 (14)	0

表 5 - 3 - 4 ほしの宿泊施設（5件）における部門別の取り組みレベル（件）の数は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	0	0	4 (80)	0	1 (20)
水の使用	0	1 (20)	2 (40)	1 (20)	1 (20)
紙の使用	0	1 (20)	3 (60)	1 (20)	0
一般廃棄物	0	0	1 (20)	4 (80)	0
悪臭・騒音・振動	0	1 (20)	2 (40)	2 (40)	0
グリーン購入	0	0	2 (40)	2 (40)	1 (20)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	0	0	2 (40)	2 (40)	1 (20)
環境保全のための仕組み・体制	0	2 (40)	0	2 (40)	1 (20)
客室	0	1 (20)	1 (20)	3 (60)	0
レストラン・厨房	0	0	2 (40)	3 (60)	0

表5-3-5 宿泊施設(4件)における部門別取り組みレベル(件)()の数値は%は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	0	0	1(25)	1(25)	2(50)
水の使用	0	0	2(50)	0	2(50)
紙の使用	0	0	2(50)	1(25)	1(25)
一般廃棄物	0	0	3(75)	1(25)	0
悪臭・騒音・振動	0	0	0	0	4(100)
グリーン購入	0	0	2(50)	0	2(50)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	0	0	2(50)	1(25)	1(25)
環境保全のための仕組み・体制	0	0	1(25)	1(25)	2(50)
客室	0	0	1(25)	1(25)	2(50)
レストラン・厨房	0	0	0	3(75)	1(25)

表5-3-6 宿泊施設全体(66件全体)における部門別の取り組みレベル(件)()の数値は%

部門名/レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
エネルギー消費	9(14)	25(38)	26(39)	3(5)	3(5)
水の使用	12(18)	28(42)	15(23)	8(12)	3(5)
紙の使用	10(15)	22(33)	26(39)	5(8)	3(5)
一般廃棄物	12(18)	20(30)	21(32)	13(20)	0
悪臭・騒音・振動	12(18)	21(32)	18(27)	7(11)	8(12)
グリーン購入	21(32)	11(17)	24(36)	5(8)	5(8)
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	15(23)	16(24)	27(41)	6(9)	2(3)
環境保全のための仕組み・体制	9(14)	32(48)	17(26)	4(6)	4(6)
客室	9(14)	25(38)	24(36)	6(9)	2(3)
レストラン・厨房	9(14)	26(39)	19(29)	11(17)	1(2)

(1) 宿泊施設における取り組みレベルの全体的傾向

表5-3-1、表5-3-2、表5-3-3、表5-3-4、表5-3-5中の取り組みレベルの割合が最も高いところを順に追って見て行くと、の宿泊施設からの宿泊施設と宿泊施設の総合評価が良くなるにつれて、取り組みレベルの最も割合が高いところが右に移行している(取り組みレベルが良くなっている)ということがわかる。

また、の宿泊施設ならレベル1の取り組み、の宿泊施設ならレベル2の取り組み、の宿泊施設ならレベル3の取り組みの割合が高い。そして、の宿泊施設ではレベル3とレベル4の取り組みの割合がほぼ同じであり、の宿泊施設ではレベル3とレベル5の取り組みの割合がほぼ同じである。このことから、総合評価が高い、やの宿泊施設では、最低でも取り組みレベルが3以上であるということがいえる。

また、表5-3-6をみると、どの部門の取り組みも、レベル2とレベル3の取り組みが、最も取り組まれている割合が高いということがわかる。このことから、全体的な傾向としてどの部門の取り組みもレベル2、3までは比較的に取り組みやすい(取り組む事が可能である)が、レベル5、6とレベルが高くなると、取り組む事が困難になるということがわかる。

(2) の宿泊施設における取り組みの傾向

本研究では、環境配慮に対する取り組みを行なう宿泊施設の裾野を広げることを目的としているので、の宿泊施設の取り組みの傾向を、取り組みやすい性質に注目してみたい。

表5 - 3 - 7 取り組みやすい性質の取り組みにおける の宿泊施設の取り組み状況 (%)

宿泊施設全体の【全面的に取り組んでいる】割合	取り組みやすい性質	の宿泊施設【全面的に取り組んでいる】割合
使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。(84%)	メリット明確型	【全面的に取り組んでいる】= 67%
ゴミの保管、管理を適切に行っている。(77%)		【全面的に取り組んでいる】= 56%
使用済用紙の裏面を使用している。(63%)		【全面的に取り組んでいる】= 22%
石鹸、シャンプー、リンスは、ポンプ式又はディスペンサー式に替えている。(62%)		【全面的に取り組んでいる】= 33%
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている。(52%)		【全面的に取り組んでいる】= 11%
提供したアメニティグッズの内、使用されなかったグッズを再度提供している。(52%)		【全面的に取り組んでいる】= 11%
空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的を実施している。(79%)	点検・整備型	【全面的に取り組んでいる】= 56%
客室ごとに空調管理ができる。(65%)		【全面的に取り組んでいる】= 44%
水道配管からの漏洩を定期的点検している。(55%)		【全面的に取り組んでいる】= 11%
悪臭防止のため排出口(換気口)の位置等の配慮を行なっている。(51%)		【全面的に取り組んでいる】= 0%
ポリ塩化ビフェニールが含まれる古い蛍光灯の交換と適正な処理に努めている。(40%)		【全面的に取り組んでいる】= 11%
廃食油は適正に処理している業者に委託している。(70%)	他業者依存型	【全面的に取り組んでいる】= 56%
フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。(51%)		【全面的に取り組んでいる】= 11%

表5 - 3 - 7をみると、の宿泊施設は【取り組みやすい】性質の取り組み関しても、全体的にあまり取り組まれていないことがわかる。【メリット明確型】の取り組みをみると、【使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。】は67%、【ゴミの保管、管理を適切に行っている】は56%と比較的取り組んでいるが、残りの取り組みでは低い割合になっている。

【点検・整備型】をみると、【空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的を実施している。】は56%、【客室ごとに空調管理ができる。】44%と比較的取り組んでいるが、残りの取り組みは非常に悪い。【他業者依存型】をみると【廃食油は適正に処理している業者に委託している。】は56%であるが、【フロン、代替フロンの適正な廃棄処分を依頼している。】は10%しか取り組まれていない。

このことから、の宿泊施設の取り組みの傾向としては、【取り組みやすい】取り組みに関しても、あまり取り組まれていないということがわかる。比較的取り組まれていることは、【取り組みやすい】取り組みの中でも最も割合が高いような取り組みである。

5 - 3 - 2 宿泊施設における総合評価結果

(1) 宿泊施設のタイプ別における総合評価結果

【ホテル】

表5 - 3 - 8をみると、ホテルにおいては の宿泊施設が2件(9%)、 の宿泊施設が9件(41%)であり、 の宿泊施設が7件(32%)、 の宿泊施設が3件(14%)、 の宿泊施設が1件(4%)であるということがわかる。

【旅館】

表5 - 3 - 8をみると、旅館においては の宿泊施設が7件(17%)、 の宿泊施設が16件(38%)であり、 の宿泊施設が14件(33%)、 の宿泊施設が2件(5%)、 の宿泊施設が3件(7%)であるということがわかる。

【宿泊施設全体】

表5 - 3 - 8をみると、宿泊施設全体においては の宿泊施設が9件(14%)、 の宿泊施設が26件(39%)であり、 の宿泊施設が22件(33%)、 の宿泊施設が5件(8%)、 の宿泊施設が4件(6%)であるということがわかる。

(2) 宿泊施設における総合評価の全体的傾向

表5 - 3 - 8からホテル、旅館の宿泊施設のタイプ別に関係なく の宿泊施設と の宿泊施設の割合が高い。また、 、 の宿泊施設の割合を合計すると72%もの宿泊施設が何かしら環境に配慮した取り組みを行なっているということがわかる。この事から京都市内における多くの宿泊施設では、環境配慮に対する取り組みを全く行っていないというわけではない、という事がいえる。しかし、全体の14%もの宿泊施設がまだ の宿泊施設であるということは、まだまだ京都市内の宿泊施設では環境配慮に対する取り組みの重要性、必要性ということが認知されていないという事が考えられる。

表5 - 3 - 8 宿泊施設のタイプ別における総合評価結果表(件) ()の中の数値は%

ホテル	2(9)	9(41)	7(32)	3(14)	1(4)
旅館	7(17)	16(38)	14(33)	2(5)	3(7)
その他	0	1(50)	1(50)	0	0
全体	9(14)	26(39)	22(33)	5(8)	4(6)

5 - 4 最も取り組みを行っている宿泊施設について

5 - 3 で述べた結果の中で、環境配慮に対する取り組みを最も行っている宿泊施設（
の宿泊施設で最も総合点が高い宿泊施設）に焦点を当てていく。

5 - 4 - 1 最も取り組みを行っている宿泊施設の実際の得点

表 5 - 4 - 1 をみると、【一般廃棄物】は取り組みレベル 3 で、それ以外は全て取り組みレベル 5 である。また、【紙の使用】、【騒音・振動】、【グリーン購入】、【環境保全のための仕組み・体制】では取り組みの点数は満点であることがわかる。

表 5 - 4 - 1 最も取り組みを行なっている宿泊施設の実際の得点

部門名	得点（実際の得点/満点）	レベル
エネルギー消費	63.6/134.7	レベル 5
水の使用	51.7/69.2	レベル 5
紙の使用	46.7/46.7	レベル 5
一般廃棄物	28.8/45.3	レベル 3
騒音・振動	22.2/22.2	レベル 5
グリーン購入	32.8/32.8	レベル 5
化学物質の購入・保管・使用・輸送・排出	54.8/57.8	レベル 5
環境保全のための仕組み・体制	77.5/77.5	レベル 5
客室	69/72.9	レベル 5
レストラン・厨房	120.35/155.9	レベル 5
総合評価	567.45/715	

5 - 4 - 2 最も取り組みを行っている宿泊施設が【取り組んでいない項目】について

最も環境に配慮した取り組みを行っている宿泊施設が、どのような取り組み項目に取り組んでいないのかをみる。

取り組んでいない項目は全部で 10 項目あった。部門別に見ると【エネルギー消費】が 3 項目、【水の使用】が 2 項目、【一般廃棄物】が 2 項目、【レストラン・厨房】が 3 項目であった。これらの項目がどのような項目であったかを部門別に詳しく見てみる。

(1) エネルギー消費部門における取り組まれていない項目

エネルギー消費部門で取り組まれていない項目は【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】と【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】と【8、施設内の電球を電球型蛍光ランプに変更している。】という3項目であった。

それぞれの取り組んでいない理由としては【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】と【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】は資金不足であり、【8、施設内の電球を電球型蛍光ランプに変更している。】はトップの方針という理由であった。

(2) 水の使用部門における取り組まれていない項目

水の使用部門で取り組まれていない項目は【15、一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。】と【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】という2項目であった。

それぞれ取り組んでいない理由としては【15、一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。】はトップの方針で、【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】は資金不足であった。

(3) 一般廃棄物部門における取り組まれていない項目

一般廃棄物部門で取り組まれていない項目は【32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。】と【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】という2項目である。

取り組んでいない理由として【32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。】と【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】の2項目とも資金不足であった。しかし、この2項目は今後取り組む予定である。

(4) レストラン・厨房部門における取り組まれていない項目

レストラン・厨房部門で取り組まれていない項目は【83、割り箸、使い捨て型食器類(皿、コップ、スプーン等)を廃止している。】と【84、割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。】と【85、お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものになっている。】という3項目であった。

取り組んでいない理由としては【83、割り箸、使い捨て型食器類(皿、コップ、スプーン等)を廃止している。】と【84、割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。】と【85、お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものにして

いる。】の3項目ともトップの方針であった。

5 - 4 - 3 最も取り組みを行っている宿泊施設が【取り組んでいない項目】のまとめ

(1) エネルギー消費部門における取り組まれていない項目のまとめ

この部門の取り組まれていない項目を見ると【1、コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネルギー設備を導入している。】

【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】のように機械又は設備を新たに導入しなくてはならない項目や、【8、施設内の電球を電球型蛍光灯に変更している。】のように設備を違うものに変更しなくてはならない項目である。このことから、コストがかかる取り組みが行われていないということがわかる。また【5、カード・キーの導入により節電を実施している。】については旅館では全く導入されていない。このことから旅館という形態には適さない取り組みであるということが考えられる。

(2) 水の使用部門における取り組まれていない項目のまとめ

この部門については【15、一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。】と【21、女性用トイレに自動流水音装置を設置している。】のように新たに機械又は設備を導入しなくてはならないものが取り組まれていない項目である。

(3) 一般廃棄物部門における取り組まれていない項目のまとめ

この部門における取り組まれていない項目を見ると【32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。】と【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっている。】というように特に新しい機械・設備などを導入しなくてもよい取り組みだが、手間がかかる取り組みである事がわかる。また、これらの項目は今後取り組む予定であるという事から、手間がかかるがあまりコストが比較的にかからない取り組みは行われるという事がわかる。

(4) レストラン・厨房部門における取り組まれていない項目のまとめ

この部門では【83、割り箸、使い捨て型食器類(皿、コップ、スプーン等)を廃止している。】と【84、割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。】と【85、お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものにしている。】という項目がトップの方針によって取り組まれていない。しかし項目としては手間や工夫をすれば取り組むことができる項目である。このことから、環境に配慮された取り組みが行われるためには、その宿泊施設のトップが環境に対してどれだけ意識をしているかに関係してくるという事がわかる。

(5) 取り組まれていない項目全体のまとめ

取り組まれていない項目全体を見ると、表5-4-2からわかるように、10項目の内
の5項目は資金不足が理由で取り組んでおらず、5項目はトップの方針が理由で取り組ん
でいない。また、取り組みの内容をみてみると大きく分けて、【機械又は設備を導入】しな
くは取り組むことが出来ないもの、【手間や工夫が必要】となる取り組みの二つに分類す
る事が出来ることがわかる。

また、【32、乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。】と
【33、不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を行なっ
ている。】のような取り組みは今後行なう予定であるという事から次の事が考えられる。手間や工夫が必
要な取り組みではあるが比較的成本がかからない、取り組みは行われる可能性が高いということであ
る。

表5-4-2 取り組んでいない項目とその理由と項目のタイプ

No.	取り組んでいない項目	理由	項目のタイプ
1	コージェネレーション設備、ボイラー廃熱の利用、ソーラーシステム等の効率的なエネ ルギー設備を導入している。	資金不足	機械・設備導入型
5	カード・キーの導入により節電を実施している。	資金不足	機械・設備導入型
21	女性用トイレに自動流水音装置を設置している。	資金不足	機械・設備導入型
32	乾電池、電球、蛍光灯等は、納入業者による引き取り、適正な処理を委託している。	資金不足	手間・工夫必要型
33	不要な調度品、機器、リネン、食器類は、リサイクル、従業員販売、寄付、バザー等を 行なっている。	資金不足	手間・工夫必要型
8	施設内の電球を電球型蛍光ランプに変更している。	トップの方針	機械・設備導入型
15	一度の操作で一定水量流れる蛇口の流水量の適正な調節を行なっている。	トップの方針	機械・設備導入型
83	割り箸、使い捨て型食器類（皿、コップ、スプーン等）を廃止している。	トップの方針	手間・工夫必要型
84	割り箸をどうしても使用する場合、環境負荷を下げる工夫をしている。	トップの方針	手間・工夫必要型
85	お客様と食事の量や好みを事前に相談し、適切なものにしている。	トップの方針	手間・工夫必要型

5 - 5 創立年度からの考察

5 - 5 - 1 ホテル・旅館別からみた創立年度からの考察

【ホテル】

図5 - 5 - 1をみると、創立年度の最も新しい宿泊施設は1998年で最も古い宿泊施設が1962年であり、創立年度の新旧の幅が約40年間であることがわかる。このことから新しい宿泊施設と古い宿泊施設の創立年度の幅は比較的狭いということがいえる。

全体的にみると創立年度は総合レベルにあまり関係ないということがわかる。

また、
、
という高いレベルに注目すると1994年以前に創立された宿泊施設には
、
が存在していない事がわかる。

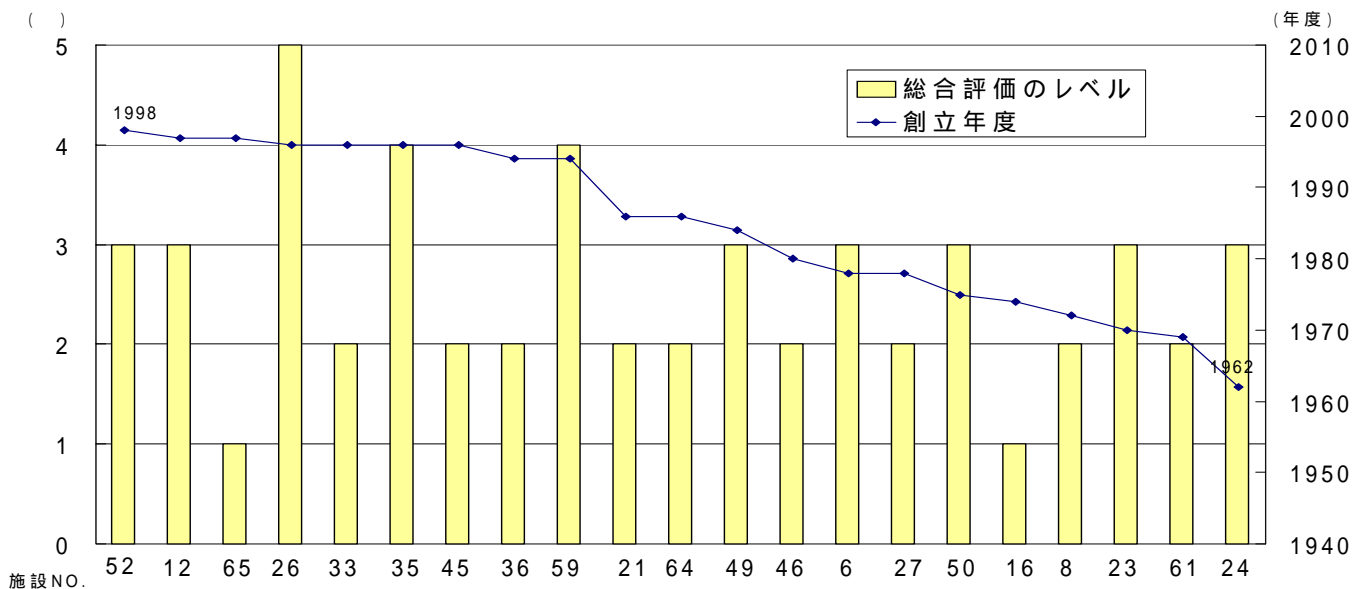


図5 - 5 - 1 創立年度&総合評価のレベル【ホテル】

【旅館】

図5 - 5 - 2をみると、最も新しい宿泊施設は1995年で、最も古い宿泊施設は1729年であり、創立年度の新旧の幅が約250年間であるということがわかる。したがって、新しく出来た宿泊施設と、昔からある宿泊施設との創立年度の新旧の幅が大きく開いている事がわかる。このことから、旅館では新しく出来た宿泊施設と、古くからある宿泊施設とでは、設備などで大きな違いがあると考えられる。

全体的にみると、創立年度が新しい宿泊施設も古い宿泊施設も総合評価のレベルにあまり関係ないということがわかる。また、
、
という高いレベルに注目すると1910年以前では
、
の宿泊施設は存在しないという事がわかる。一方、1954,1955,1957年創立の宿泊施設は総合評価のレベルが高いということがわかる。

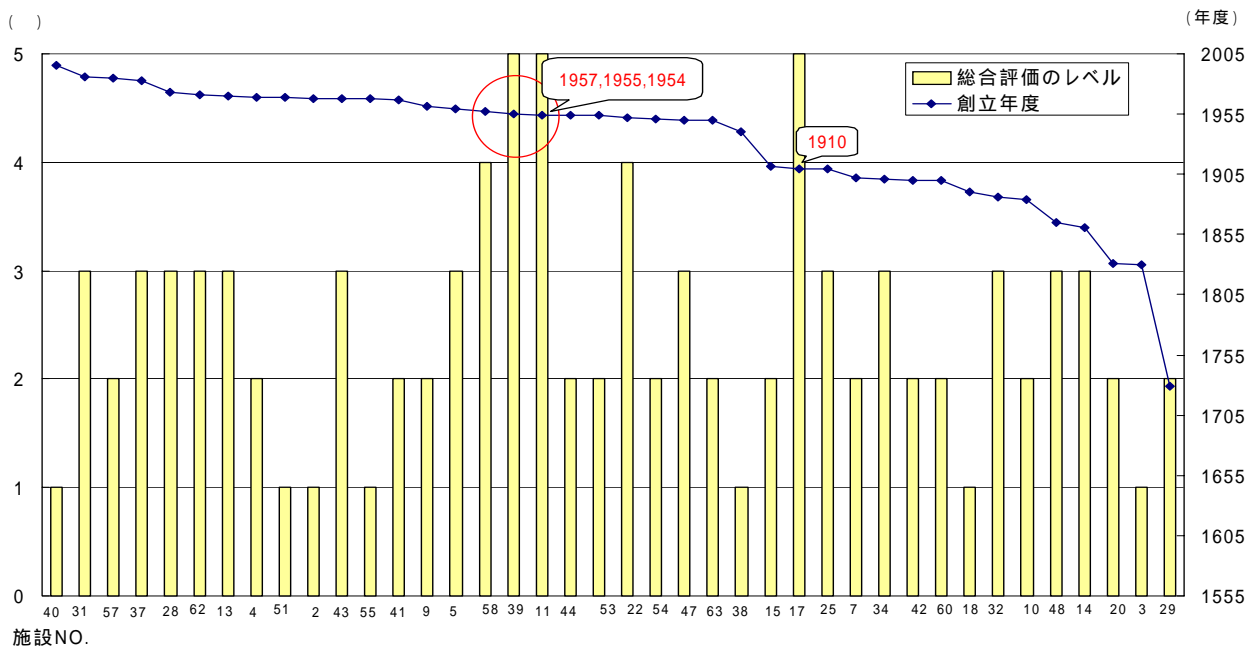


図 5 - 5 - 2 創立年度 & 総合評価のレベル【旅館】

5 - 5 - 2 中小規模・大規模宿泊施設別からみた創立年度からの考察

【中小規模宿泊施設】

図 5 - 5 - 3 をみると、全体的にみると、創立年度が新しい宿泊施設も古い宿泊施設も総合評価のレベルにあまり関係ないということがわかる。また、
 という高いレベルに注目すると 1910 年より前では、
 の宿泊施設は存しないという事がわかる。

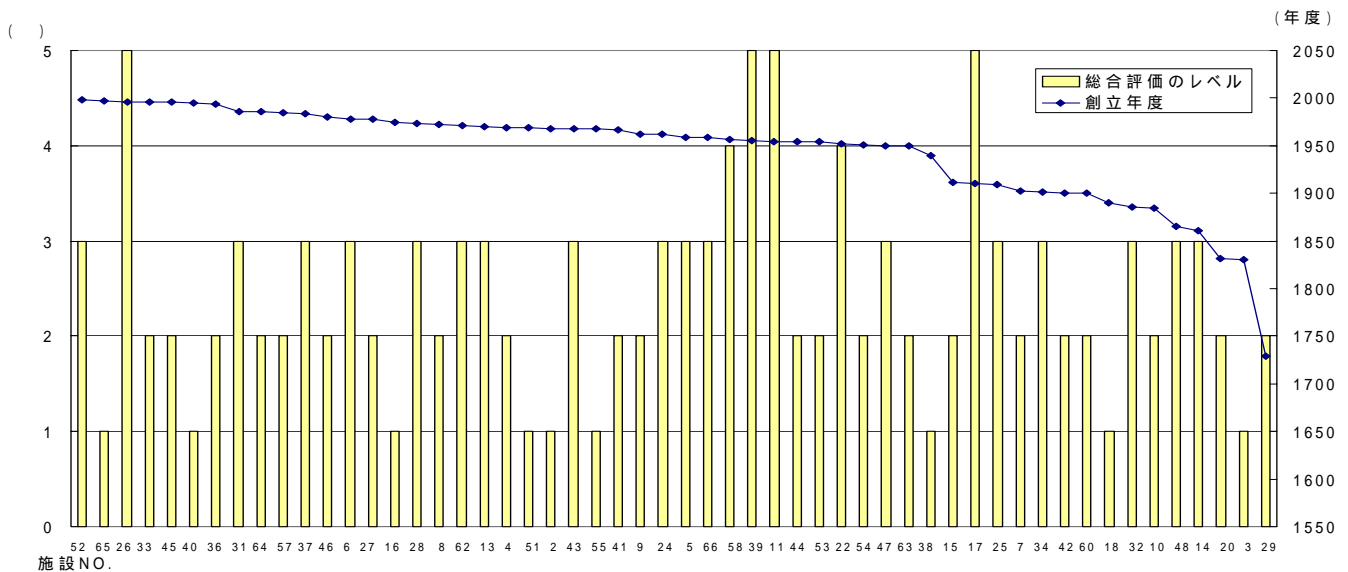


図 5 - 5 - 3 創立年度&総合評価のレベル【中小規模宿泊施設】

【大規模宿泊施設】

図 5 - 5 - 4 をみると、全体的にみると、創立年度が新しい宿泊施設も古い宿泊施設も総合評価のレベルにあまり関係ないということがわかる。また、
、
と
いう高いレベルに注目すると 1994 年より前では
、
の宿泊施設は存在
しないという事がわかる。

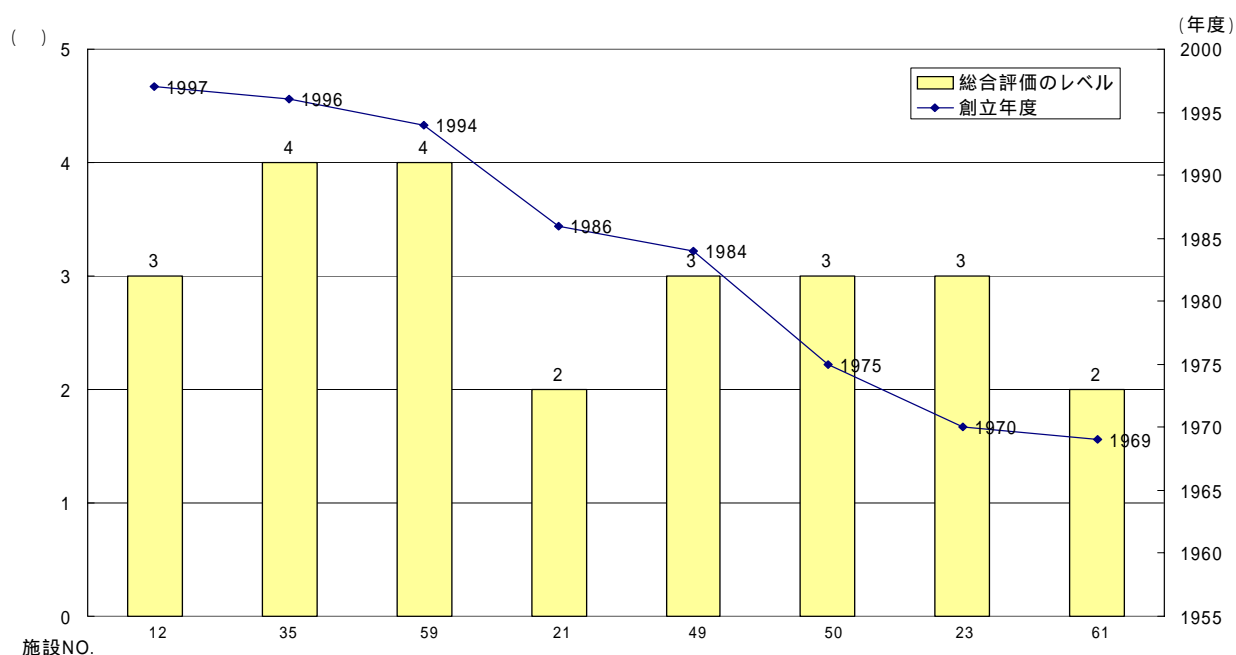


図 5 - 5 - 4 創立年度&総合評価のレベル【大規模宿泊施設】

5 - 5 - 3 創立年度からの考察のまとめ

ホテル、旅館という宿泊施設の形態の違い、また中小規模、大規模という宿泊施設の規模の違いに関係なく、創立年度と総合評価のレベルとは関係がないということがわかる。

このことから、宿泊施設が環境に配慮した取り組みを行なうにはホテル、旅館という宿泊施設の形態の違いや中小規模、大規模という宿泊施設の規模の違い、宿泊施設自体の創立年度（施設の新旧）という事はあまり関係がないと考えられる。旅館については、創立年度の新旧の幅が約 250 年もあることから、取り組みを行なう上で設備の新旧などにより、取り組みやすさなどに多少の違いは出てくると考えられる。しかし、このことも環境配慮するにはあまり関係がないということがわかった。

以上のことを踏まえると、宿泊施設が環境に配慮した取り組みを行なう上で最も重要な事は、その宿泊施設のトップが環境に対してどれだけ考えているかということではないか

と考えられる。

第6章 結論

6 - 1 本研究の結論

本研究では

京都市内の宿泊施設における環境対策は、現状として他業種よりも遅れているということ。

GPNでは2002年4月から『宿泊施設の環境ガイドライン』の策定が進められているということから、宿泊施設における環境配慮が重要視されているということを背景として、次の3つを目的とし、京都市内の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みについて調査した。

京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを調査する事により現状を把握する。

宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質（取り組みやすい取り組み・取り組みにくい取り組み）を明確化する。

この結果を受けて、今後宿泊施設で環境配慮に対する取り組みが促進されるような、評価システムを提案する

以下ではこの3つの目的に添って結論を述べる。

6 - 2 京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の結論

京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状として、よく取り組まれている取り組みは、ホテル・旅館という宿泊施設の形態の違い、中小規模宿泊施設・大規模宿泊施設という宿泊施設の規模の違いに関係なく、宿泊施設全体においてほぼ同じ様な取り組みであることがわかった。

具体的に述べると、【使い捨てスリッパの設置をやめ、耐久性のあるスリッパを導入している。(84%)】のように、取り組む事によるメリットが明確であり、なお且つ特別な機械・装置を導入しなくても取り組む事ができる取り組み。【空調・冷却設備の保守点検・整備を定期的実施している。(79%)】のように、整備・点検など機械や設備を導入していれば必ず行なうような取り組み。【廃食油は適正に処理している業者に委託している。(70%)】のように他業者に取り組みを委託し、宿泊施設自体では手間や時間が掛からない取り組み。以上の様な取り組みが高い割合で取り組まれている。

一方、現状としてあまり取り組まれていない取り組みに関しては、ホテル・旅館という宿泊施設の形態の違い、中小規模宿泊施設・大規模宿泊施設という宿泊施設の規模の違いによって若干の相違がみられた。

6 - 3 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質の結論

宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの性質については、京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの現状の中で、よく取り組まれている取り組みを【取り組みやすい取り組み】、あまり取り組まれていない取り組みを【取り組みにくい取り組み】として性質を分類した。

【取り組みやすい取り組み】の性質としては大きく3つのタイプに分類する事ができた。

メリット明確型：取り組むことによるメリットが明確である取り組み

点検・整備型：点検や整備、管理、処理を行なう取り組み

他業者依存型：他の業者に作業を依頼、委託する取り組み

【取り組みにくい取り組み】の性質としてはこれらの取り組みの性質としては、4つのタイプに分類する事ができた。

お客負担型：お客に何らかの負担、不快感などを与える可能性のある取り組み

環境配慮特化型：グリーン購入や環境保全の仕組みなど環境配慮に特化した取り組み

手間・工夫必要型：手間や時間を掛けたり、工夫を必要とする取り組み

機械・設備導入型：何らかの機械・設備を導入しなくては出来ない取り組み

6 - 4 宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの評価システム提案の結論

6 - 4 - 1 評価システムの仕組みのまとめ

3章での現状把握、4章での性質の明確化に基づき宿泊施設における環境配慮に対する取り組み評価システムを提案した。ここでの評価というのは相対評価である。

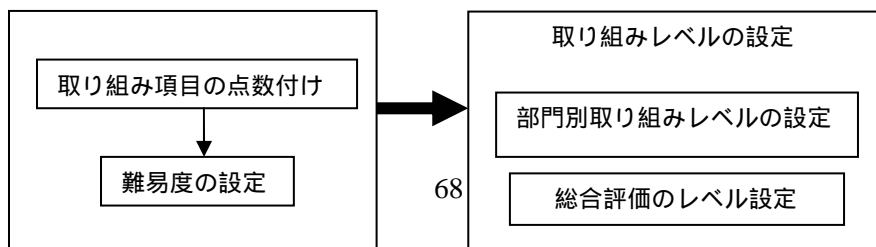
この評価システムでは、まず取り組み項目の点数付けを行った。この点数付けは取り組み項目ごとの難易度と関係している。したがって、このために、取り組み項目の難易度を設定した。これは、【全面的に取り組んでいる】宿泊施設の%で考えた。この%が低いほど難易度が高く、この%が高いほど難易度が低いとした。この難易度は【AA】、【A】、【B】、【C】と4つ作成した。（【AA】が最も難易度が高い）

次に、部門別の取り組みレベルの設定、総合評価のレベルの設定をおこなった。

部門別の取り組みレベルとは、各部門におけるそれぞれの取り組みが、どの程度行なわれているかを評価（点数化）し、各部門内の取り組み評価（点数）を合計し、その評価（点数）に基づき各部門の取り組みレベル（レベル1～レベル5）を設定する。

総合評価のレベル（～）とは、宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを、総合的に評価したものである。

<評価システムの仕組みのフロー図>



6 - 4 - 2 評価システムでの評価の仕方

評価システムでの評価の仕方は、まず評価シートを用いて、対象となる各宿泊施設が自己評価で取り組みの現状を調査する。次に、第3者がその調査の結果から、取り組みごとに点数化する。そして、その点数を各部門ごとに合計し、部門別の取り組みレベルを認定する。最後に、各宿泊施設における全部門の取り組み項目の合計点数を出し、それに基づいて各部門ごとの点数を総合し、各宿泊施設における環境配慮に対する取り組みの総合レベルを認定する。

6 - 4 - 3 評価システムによる調査結果のまとめ

第5章の前半では宿泊施設における環境配慮に対する取り組みを評価するためのシステムを提案した。ここでの評価というのは相対評価であるので、基本的に他の宿泊施設が出来る事は、他の宿泊施設でも取り組む事が可能であると考えている。

この評価システムを用いて評価する事によって、京都市の宿泊施設における環境配慮に対する取り組みに関してのラベリングを行なう事が出来た。またラベリングを行なう事によって宿泊施設のレベル別における取り組みの傾向を把握する事が出来た。

結果をみると、の宿泊施設は全体の14%、の宿泊施設は39%、33%、の宿泊施設は8%、6%であった。

また、宿泊施設のレベル別の取り組み傾向を把握する事が出来た。の宿泊施設では、本研究で明確にした【取り組みやすい取り組み】に関しても取り組みのレベルはあまり良くない。の宿泊施設になると【取り組みやすい取り組み】の取り組みレベルはの宿泊施設よりも全体的に良くなり、【取り組みにくい取り組み】に関しても少し取り組み始める。の宿泊施設になると、【取り組みやすい取り組み】に関しては全体的に非常に高いレベルで取り組まれ、【取り組みにくい取り組み】に対しても最低でもレベル3という比較的高いレベルの取り組みをしている。

6 - 4 - 4 最も取り組みを行っている宿泊施設のまとめ

最も取り組みを行っている宿泊施設の取り組みの現状は、【一般廃棄物】は取り組みレベル3であるが、それ以外は全て取り組みレベル5である。また、【紙の使用】、【騒音・振動】、【グリーン購入】、【環境保全のための仕組み・体制】では取り組みの点数は満点であることがわかる。【グリーン購入】、【環境保全のための仕組み・体制】という全体的にあまり取り組まれていない部門が満点であるということから、宿泊施設においてグリーン購入や環境保全のための仕組み・体制が可能である事がわかる。

また、取り組まれていない項目全体を見ると、10項目の内の5項目は資金不足が理由で取り組んでおらず、5項目はトップの方針が理由で取り組んでいないということである。取り組まれていない項目の内容をみると、【機械・設備導入型】、【手間・工夫必要型】

の取り組みであった。【機械・設備導入型】の取り組みに関してはコストが非常にかかるので、取り組んでいない理由が資金不足であるならば、これ以上の取り組みは難しい。【手間・工夫必要型】の取り組みで、取り組んでいない理由がトップの方針である取り組みについては、まだまだ取り組む事は可能であると考えられる。しかし、今回の調査では、トップの方針の具体的な理由を把握していないので、取り組む事が出来るという断定は出来ない。

6 - 4 - 5 これから環境配慮に対する取り組みを始める宿泊施設に対する提案

これから環境配慮に対する取り組みを始める宿泊施設にとって、最も重要な事は、取り組み事によって何らかのメリットを得る事が出来るのかという事であると考えられる。したがって、まず本研究において分類した、取り組みやすい取り組みの【メリット明確型】の取り組みから取り組むのがよいだろう。実際に本研究の評価システムで評価してみると、この取り組みを全て全面的に取り組むと122.5での宿泊施設の評価になる。次に、取り組みやすい【点検・整備型】の取り組みを全て全面的に取り組むと合計で144.9になり、この宿泊施設に評価される。したがって、まずこのような取り組み事による負担（コストなど）があまりかからず、メリットが明確な取り組みから行なうとよい。

6 - 5 今後の課題

本研究で提案した評価システムは、評価シートに記入するのは調査される宿泊施設側のひとである。したがってこの方法だと、宿泊施設側の主観的な評価になってしまい、客観性が薄れるという欠点がある。実際に、この宿泊施設が4件、この宿泊施設が5件も存在するという結果が出た。しかし現状として宿泊施設の環境対策は発展途上であり、将来的にさらに高い取り組みが必要である。また、ヒアリングから項目の内容について担当者の意味の取り違えが存在し、どうしても、人間の心情としてよく記入しがちであるということがわかった。このことから、以上の結果が自己申告で出た宿泊施設には、審査員などが実際に調査を行い、本当に評価シートに記入したとおりの取り組み項目をクリアしているのか検査する必要があると思われる。このことにより、主観性の強いこの評価システムが、客観性を取り入れる事によって良くなると思われる。

本研究では宿泊施設における環境配慮に対する取り組みに対しての、【難易度】(取り組みやすさ)というものは明確にする事は出来た。しかし、環境配慮に対する取り組みの重要度ということは調査する事が出来なかった。しかし、環境に配慮した取り組みを行なう上で、取り組みの重要度というのは、取り組みを行なう上での一つの指針にもなり、環境への貢献度という事にも関係してくる。したがって、重要度も考慮しなくてはならないと考えられる。(重要度とは、その取り組みが環境に対してどれだけ貢献するかという事である)
